

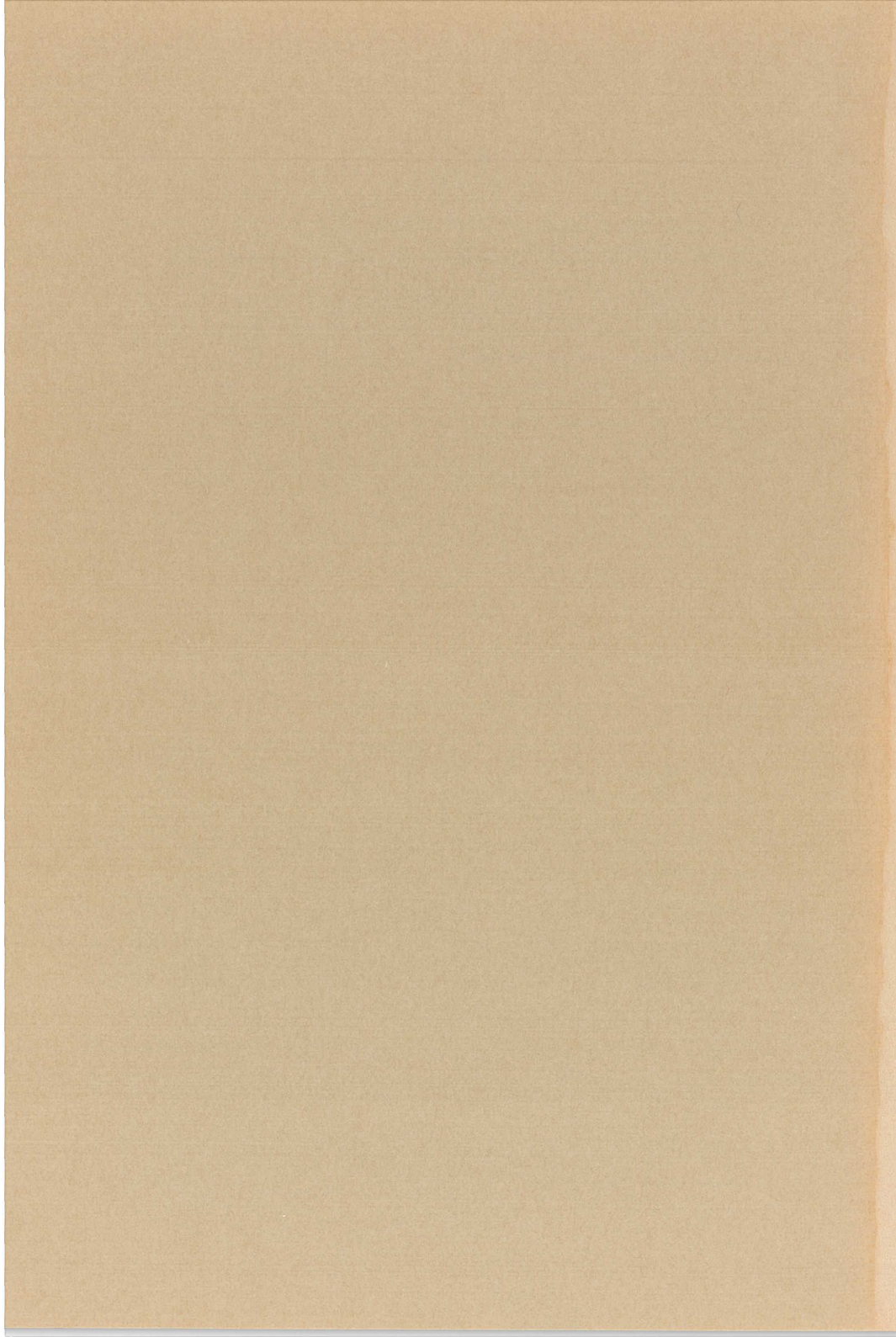
ISSN 1344-476X

財団
法人

東洋文庫年報

平成 10 年度

財団法人 東洋文庫



目 次

I 図書事業	1
1. 資料の収集	1
2. 資料の整理	2
3. 資料の利用と複写サービス	3
4. 書庫資料の見学と研修	6
5. 資料の保存整理と複製	8
6. 業務の機械化	9
7. 書庫内資料と書架スペース	9
II 研究事業	11
1. 調査研究	11
i 文部省科学研究費による調査研究	11
ii 一般調査研究	16
iii 特別調査研究	19
iv その他の研究助成金による事業	21
v 研究委員会	28
2. 学術図書出版	29
3. 講演会	30
4. 研究会（東洋文庫談話会）	32
5. 学術情報提供	32
i 研究者養成	32
ii 研究者の交流および便宜供与のサービス	33
iii 研究会等への会場提供サービス	39
iv 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス	40
v 参考情報提供サービス	40
6. 職員の研究業績	41

Ⅲ 業務報告	51
1. 総務報告	51
2. 人事報告	52
Ⅳ 役職員名簿	54
1. 役 員	54
2. 東洋学連絡委員会委員	55
3. 名誉研究員	55
4. 職 員	56
5. 臨時職員	59
Ⅴ 財団法人東洋文庫附置	
ユネスコ東アジア文化研究センターの事業	60
1. ユネスコ協力活動	60
2. 学術情報活動ーアジア・北アフリカ人文・社会科学関係ー	61
3. 重要文献の保存・普及活動	
ーアジア重要文化財（文献）の保存・普及ー	67
4. 研究普及活動	68
5. 業務報告	70
6. 役職員名簿	73

I 図 書 事 業

1. 資 料 の 収 集

(1) 資料購入

資料購入費の支出総額は18,338,047円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書（冊）	洋書（冊）	計（冊）	非図書資料
一般文献資料	134	43	177	0
中央アジア特別研究資料	960	26	986	0
東アジア特別研究資料	1,407	1	1,408	0
西アジア特別研究資料	19	743	762	0
東南アジア特別研究資料	0	259	259	0
アジア特定資料	0	18	18	0
チベット特別研究資料	136	179	315	0
近代中国特別研究資料	940	37	977	0
計	3,596	1,306	4,902	0

おもな購入資料としては、以下のものがある。

新編中華人民共和国地方志叢書	270冊
四庫全書存目叢書 經部、集部	620冊
光緒朝朱批奏摺 81-120	40冊
愛親覺羅総譜	31冊
アラビア語図書	232冊
パキスタン発行図書	184冊

(2) 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書（冊）	洋書（冊）	計（冊）	国内（冊）	国外（冊）	計（冊）
単 行 本	572	225	797	1,593	901	2,494
定期刊行物	4,175	1,142	5,317	2,115	1,652	3,767
計	4,747	1,367	6,114	3,708	2,553	6,261

主な受贈資料としては、以下のものがある。

民族文化推進会寄贈 影印評点韓国文集叢刊 181－200巻 20冊
 国立国会図書館寄贈 中央アジア関係洋書 88冊

資料室では文庫刊行物以外の図書を交換用資料として活用し、近代中国研究室の協力を得て作成した交換用図書リストを海外の諸機関に送付している。今年度は下記の1機関に要望のあった図書を寄贈した。

交換機関	送付リスト	送付図書数
中華民国国家図書館	中文・和文・欧文 112タイトル	78タイトル

（3）蔵書数

収蔵する蔵書総数は817,960冊で、和漢書471,920冊、洋書322,600冊、複写資料23,440冊である。

2. 資料の整理

（1）図書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書 1,772冊
 欧米語図書 434冊
 アラビア語図書 972冊
 トルコ語図書 281冊

整理したおもな図書は以下のとおりである。

(1) 新編中華人民共和国地方志叢書 225冊
 (2) 四庫全書存目叢書 子部 292冊
 (3) 続修四庫全書 経部 180冊
 (4) 光緒朝朱批奏摺 80冊

- | | |
|--------------------|-----------|
| (5) 光緒宣統兩朝上諭檔 | 37冊 |
| (6) 中国金石集萃 | 10函1,000枚 |
| (7) インド・イラン関係欧米語図書 | 88冊 |

(2) 目録の刊行

刊行した冊子目録は以下のとおりである。

『東洋文庫新着図書目録 46』100p

(3) 雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文11タイトルである。

	タイトル数		冊数	
	和・中・韓	欧	和・中・韓	欧
受贈	677	183	2,385	623
購入	181	100	1,295	217
小計	858	283	3,680	840
計	1,141		4,520	

(4) 新聞

本年度は18種（何れも中文）受入れた。

外注製本の総量は新聞・雑誌合わせて729冊であった。

3. 資料の利用と複写サービス

(1) 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は442名で、内訳は教職員48名（外国人27名）、研究機関関係者16名（外国人13名）、大学院生94名（外国人31名）、大学生253名（外国人22名）、その他31名であった。

閲覧開館日は230日、利用者数は4,371名、利用資料数は63,474冊で、詳細は下記のとおりであった。

近代中国研究委員会収集資料の貸出は延べ914名、2,550冊であった。内訳は中文1,534冊、日文865冊、欧文151冊であった。

東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ4,368名、8,703冊であった。

開館日数および閲覧者数

	開館日数	閲覧者数	日平均	昨年同月比 (△印は減)
平成10年 4月	20 ^(日)	242 ^(人)	12.1 ^(人)	△21 ^(人)
5	18	337	18.7	△37
6	21	345	16.4	18
7	21	381	18.1	△41
8	20	453	22.7	△51
9	19	430	22.6	△23
10	21	452	21.5	△52
11	17	488	28.7	97
12	17	393	23.1	△60
平成11年 1	17	237	13.9	16
2	18	272	15.1	10
3	21	341	16.2	12
計	230	4,371	19.0	△132

閲覧カウンター出納冊数

	和 書		漢 書		洋 書		合 計		日平均	昨年同月比 (△印は減)
	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数		
平成10年 4月	202	357	420	2,338	136	200	758	2,895	144.8	△1,497
5	225	285	739	3,330	135	247	1,099	3,862	214.6	△454
6	207	435	783	3,579	161	247	1,151	4,261	202.9	△21
7	277	811	745	4,110	232	393	1,254	5,314	253.0	△1,387
8	283	412	1,193	6,778	278	604	1,754	7,794	389.7	△1,942
9	364	509	1,452	9,661	213	468	2,029	10,638	559.9	4,640
10	368	527	1,065	4,550	204	299	1,637	5,376	256.0	△554
11	401	663	1,232	6,562	177	283	1,810	7,508	441.6	2,100
12	279	484	952	3,741	177	262	1,408	4,487	263.9	△1,702
平成11年 1	236	793	476	1,984	100	167	812	2,944	173.2	224
2	196	437	703	3,084	166	272	1,065	3,793	210.7	403
3	195	285	723	3,764	230	553	1,148	4,602	219.1	413
計	3,233	5,998	10,483	5,348	2,209	3,995	15,925	63,474	276.0	223
比 率	9.4%		84.3%		6.3%		100%			

(2) 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

マイクロ・フィルム

申込件数	撮影齣数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
618	44,315	4,088	4,594 ^マ

電子複写

申込件数	焼付枚数
737	48,790

(3) レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて1,256件であった。

(4) 資料の貸出

博物館・美術館が主催して行う展覧会への貸出は4件で、詳細は次のとおりであった。

展覧会への資料の貸出一覧

	展 覧 会 名	主 催 者	展覧会期間	開催場所	主な資料と数量
1	開館記念特別展 さくーLa…桜の 美学と実学	東京都北区教育委員会 北区飛鳥山博物館	平成10.3.27 ～5.5	東京都北区教 育委員会北区 飛鳥山博物館	『櫻花聚品』1冊
2	江戸東京博物館 平成10年度第一回企 画展「伊能忠敬」展	東京都江戸東京博物館 (財)東京都歴史文化財団 (株)朝日新聞社	平成10.4.21 ～6.21	東京都江戸 東京博物館	『NIPPON』他2点3冊
3	国立国会図書館開館 50周年記念貴重書展	国立国会図書館	平成10.6.9 ～6.20	国立国会図書館	『ドチリーナ・キリ シタン』1冊
4	特別展 漂流－江戸時代の 異国情報－	仙台市博物館	平成10.9.18 ～11.8	仙台市博物館	『南洋漂流記』他 17冊4帖2巻

4. 書 庫 資 料 の 見 学 と 研 修

申請は22件あり、358名に便宜を計った。その詳細は次のとおりである。

なお、このほかに当日申込の書庫見学が82件164名あった。

	実施日	申 請 者	参 加 者	人数(名)	主 な 内 容
1	平成10年 4月22日	小 名 康 之	青山学院大学学生	20	書庫内資料見学
2	5月14日	松 重 充 浩	広島女子大学教職員 ・学生	12	〃
3	5月19日	梅 村 坦	中央大学学生	10	〃
4	5月27日	佐 藤 次 高	東京大学教職員 ・学生	23	〃
5	6月5日	酒 井 憲 二	調布学園女子短期 大学学生	6	〃

6	6月15日	高 田 幸 男	明治大学教職員 ・学生	30	書庫内資料見学
7	6月15日	枝 松 栄	国立国会図書館職員	14	〃
8	6月16日	〃	〃	13	〃
9	6月17日	三 浦 徹	お茶の水女子大学 教職員・学生	20	〃
10	6月23日	春日井 明	清泉女子大学教職員 ・学生	15	〃
11	7月2日	窪 田 新 一	北京大学学生・笹川 日中友好基金職員	10	〃
12	7月8日	柳 澤 明	早稲田大学教職員 ・学生	9	〃
13	7月9日	白 井 佐知子	東京外国語大学 教職員・学生	17	〃
14	8月4日	西 田 暢 子	国士舘大学学生	3	〃
15	10月7日	亀 井 紀 子	三菱広報委員会 三菱ゆかりの地バ ス・ツアー参加者	38	〃
16	10月8日	原 洋之介	東京大学東洋文化 研究所漢籍整理長 期研修研修生・職 員	16	所蔵資料についての研修および 書庫内資料見学
17	11月13日	田 中 良 昭	仏教図書館協会会員	40	書庫内資料見学
18	11月24日	小 風 秀 雅	お茶の水女子大学学生	15	〃
19	11月26日	山 内 弘 一	上智大学教職員 ・学生	15	〃
20	12月14日	枋 尾 武	日本女子大学学生	5	〃
21	12月21日	楠 木 賢 道	筑波大学教職員 ・学生	14	〃
22	平成11年 1月25日	味 岡 徹	聖心女子大学教職員 ・学生	13	〃

5. 資料の保存整理と複製

原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルム化など他の媒体への交換を行った。
作業項目と内容は下記のとおりである。

(1) 漢籍地方志

継続している作業で本年度は、分類記号Ⅱ-11-Bj-85~99、Ⅱ-11-Bi-37
を対象。

裏打ち 3,834葉、綴じ直し 97冊、帙作製 7ヶ

(2) 貴重洋書 (Old books)

継続している作業で本年度は、分類記号O-3-D~O-3-E、TO-12C-
1~14 (辻文庫) を対象。

清掃、クリーニング、オイリング及びラッパー作製 166冊、補修 36枚、再
製本 1冊

(3) その他の書庫内資料

近代中国研究委員会収集資料、目録室資料を対象。

本製本 (洋、和) 150冊、再製本と簡易製本 151冊、ラッパー及び帙作製 41
ヶ、補修 2,364枚

(4) 特別資料

コーラン (A-R-284)

表紙を新規に作製し、全体的に修復した。

(5) 資料の撮影 8,191コマ

対象資料：漢籍稀覯書および安南本

(6) 活用フィルム作製のためのポジフィルムの作製 15リール

撮影した漢籍稀覯書および安南本のネガフィルムを対象にポジフィルムの作製
を行った。

(7) 資料の複製と他機関取り寄せフィルムからのプリント 29,431枚

米国議会図書館所蔵旧国立北京図書館善本を対象にプリントした。

6. 業務の機械化

東洋文庫の蔵書資料のすべてを網羅する目録データベースの構築に向けて、データベースに相応しい目録規則の策定に努力した。言語や文字による特性を考慮しつつ、東洋文庫全体として均質な目録データベースとなり得るような統一的規則を、ほぼ整備した。

7. 書庫内資料と書架スペース

(1) 書庫内資料の排架一覧とおもな調整箇所

階	1 号 棟	調整箇所	2 号 棟	調整箇所
6	朝鮮本、安南本、満州本、 蒙古本、和書（XIII～XVII ・大型）		和書（II～XII）	
5	Old Books, PB、MS、 漢籍稀観書、岩崎文庫、 銅版画、古地図、梅原考古 資料、辻文庫	岩崎文庫		
4	洋書（I～XII・大型）、 第IIモリソン文庫、 ベラルデ文庫、アジア諸語 資料、ロシア語別置資料	洋書（I～IX） チベット語資料	トルコ語資料、岩見文庫、 アジア諸語資料、チベット 語資料	チベット語資料
3	漢書（経部・子部・集部・ 叢書・大型）	叢書	洋書（XIII～XVII・XIX）、 モリソンパンフレット、 アラビア語資料、ペルシア 語資料	洋書（XIII～XVI）
2	漢籍（史部）		近代中国研究委員会収集資料	中国語、日本語図書
1	逐次刊行物（日・中・朝・ 洋新聞）	逐次刊行物（日・ 中・新聞）	逐次刊行物（欧文）	洋雑誌

(2) 書架の不足について

1・2号棟書庫は、数年前にはほぼ満杯状態に達して以後、もはや適正な排架は困難な状況に至っていた。通路や書架補助棚に山積された資料や「泣き別れ」排架資料が各フロアに頻出し、出納に支障をきたし続けてきた。こうした危機的状況に対処す

るため、平成9年度以来、通路に書架を増設し、資料の移動・調整がなされてきた。本年度は、こうした作業を、複文庫受入れ準備を機にさらに徹底的に推進し、長らく続いてきた危機的状況を大幅に解消させた。具体的な成果は以下の如くである。

1. 2号棟4Fのアラビア語、ペルシア語資料、2号棟3Fの洋書(X~XII)、1号棟4Fの洋書(I~IX)を全面的に移動して、2号棟4Fに複文庫受入れのスペースを確保した。なお、2号棟4Fの大部分の書架を新書架と交換した。
2. 1号棟4F通路にFS式単式6段書架39台を増設し、1号棟4F洋書(I~IX)、及び、2号棟3F洋書(X~XII)総てを、1フロアーひと続き右回りに排架しなおして、スムーズな出納を可能にした。
3. 移動させた2号棟3F洋書(X~XII)あとに、2号棟4Fのアラビア語、ペルシア語資料を、今後の新規増加分スペースを確保して排架し、併せて従来の山積状態を解消させた。
4. 2号棟3F洋書XIII(イラン関係資料)、XIV(アラビア関係資料)等をペルシア語・アラビア語資料と通路を隔てて並行して排架しなおし、出納、利用の便をはかった。
5. 混乱していた1号棟5F貴重書書庫を調整し、岩崎文庫を移動させ、複文庫貴重本受入れスペースを確保した。
6. 前年度に通路に書架が増設された2号棟1F洋雑誌全体を排架しなおし、長年の山積状態を解消させた。
7. 同じく、前年度に通路に書架が増設された2号棟2F近代中国研究委員会収集資料を移動、調整し、出納の便をはかった。
8. 2号棟4F、1号棟4Fに長らく「泣き別れ」排架されていたチベット語諸資料を2号棟4Fに結集させた。

以上の如く、山積本、「泣き別れ」本の問題の多くが解消され、大いに成果があがった。書庫内資料の調整については、従来、とかくかけ声だけで実行が伴わなかったことが猛省される。1号棟2F・3Fの山積漢籍についても早急の処置が望まれる。

さて、創意、工夫、努力によって当面の危機的状況を一応回避されたものの、満杯状態はもはや限界を越えており、とても手放しで喜べる状況ではない。新書庫の建設が望めない以上、資料価値のより低い書籍の受入れ中止、大量別置、処分等を考慮すべき段階に来ていると思われる。

Ⅱ 研 究 事 業

1. 調 査 研 究

調査研究は、文部省の国庫補助金および科学研究費補助金の事業費によるものと、民間学術研究助成事業費あるいは東洋文庫学術情報提供事業費などによるものとなる。

ⅰ. 文部省科学研究費による調査研究

基盤研究(A)－(2)

【課 題】 「東北アジア地域に関する民族誌の総合的研究」

【期 間】 平成10年度 (4ヶ年間継続採用・第2年度)

【目 的】 ;

今回の研究は、17世紀以降20世紀初頭に至る時期の、東北アジア(中国東北、朝鮮、ロシア極東・シベリア、モンゴル)の文化と民族関係に焦点をあてる。この時期の東北アジアに関する資料は、満洲語、漢語、朝鮮語、モンゴル語、そしてロシア語をはじめヨーロッパ諸語など、様々な言語で記述されているが、これら資料相互の体系的な検討はいまだなされたことがない。本研究の目的は、様々な資料のうねにあらわれた東北アジア諸民族のすがたを、満洲語文献班、朝鮮語文献班、漢籍班、ヨーロッパ諸語文献班の4班に分けて、比較考察しようとするものである。

【研究実施概要】 ;

本研究を遂行するために、とくに不足している近年刊行された文献、および資料公開によって入手可能となったマイクロ資料などを重点に、東北アジア関係資料・文献をできる限り体系的に収集し、基礎資料の整備をはかるとともに、東北アジア地域に関する民族誌の総合的研究を促進する。第2年度目の主要な活動実績は以下の如くである。

- (1) 東洋文庫には、我が国において最大の東北アジア民族誌関係文献が所蔵されるが、その全体状況を明らかにし利用を促進するために、そのデータベース化事業を継続して行い、ヨーロッパ語文献(ロシア語も含む)部分の入力処理を完了し、今後収集すべき資料についてその方針を検討した。
- (2) 東洋文庫所蔵満洲語古典籍について、その解題目録を編集すべく整理作業を前年度に続き行い、データベース入力を行った。

- (3) 東洋文庫に所蔵される、清代満洲語文書（鑲紅旗檔）の未整理のものを分類し、さらに満文部分のローマ字転写を行い、基礎データを整えた。
- (4) 図書資料収集に関しては、本年度は中国出版の東北アジア関係文献に重点を置き、東洋文庫未収のものを選び購入し、また中国出版のモンゴル語文献についても収集を行った。
- (5) 東洋文庫に次ぐ満洲語文献を保管する大阪外国語大学図書館所蔵石浜文庫から、東洋文庫に未収蔵で特に貴重なものを選び、写真撮影を行った。
- (6) アメリカ合衆国における最大の満洲語文献コレクションである米国議会図書館所蔵本に関して、同図書館の要請により解題目録を作成し、松村潤編『米国議会図書館所蔵満洲語文献目録』として出版した。

【研究代表者】 松村 潤研究員（統括）

【研究分担者】 ；

満洲語文献班：松村潤、石橋崇雄

朝鮮文献班：山内弘一、大井剛

漢籍班：神田信夫、加藤直人

ヨーロッパ諸語文献班：中見立夫、C.A.ダニエルス（以上、計8名）

研究成果公開促進費（データベース等）

【名 称】 「東洋学総合情報システム」(A Comprehensive Information System of the Asian Studies) (東洋文庫電算化委員会委員長：北村 甫)

【期 間】 平成10年度（平成6年度新規採用・以降、単年度ごと申請）

【分 野】 「アジアの諸言語で書かれた文献およびアジアについて書かれた書籍」

【目 的】 ；

本データベースは、アジア諸国語によって書かれた文献を中心に、所蔵目録、国内所在目録、解題目録、研究文献目録、古典的文献のテキストなどのデータベース作成を目指す。これらはいずれも学術研究上、必須の基礎資料であることは論をまたない。これらについて、館内での作業および検索に際しては、欧文は言うに及ばず、アジア諸言語についても、できうる限りオリジナルの文字を使用し、やむを得ない場合でも学界で標準的に用いられている転写文字を使用して作成することによって、コンピュータ上でも正確な情報蓄積ができることを目指している。また公開に際しては、すべての研究者の利用の便を考慮し、様々なコンピュータに対応した文字セットと複数のフォーマットにて公開する。公開の手段は、現在はCD-ROMおよびInternet によるファイルの配付を行う。

【事業実績概要】；

東洋文庫所蔵のアジアの諸言語文献についての書誌目録データベース、各種索引、全文入力テキストデータベース、およびアジアに関する研究文献の目録データベースなどを、できる限りオリジナルの文字にて作成する。東洋文庫電算化委員会では、平成6年度から組織的にデータベースの入力を始め、アラビア語、トルコ語、チベット語、ウイグル語、ペルシア語、スィンディー語、カザフ語、オスマン語、中国語、欧文、ロシア語、和文の蔵書目録データベースを始めとして、チベット語による宗義集、目次集、テキストデータなど各種のデータベースを作成している。一昨年度より公開可能なデータベースをCD-ROMに収録して、配布をした。またインターネット上でも、簡単なオンライン検索を始めている。

平成10年度は、従来のデータベースを引き続き作成するほか、ペルシア語蔵書目録、ペルシア人名典拠データベース、オスマン語蔵書目録、モリソン・パンフレット目録、チベット語文献マイクロフィッシュ目録を完成させ、漢籍目録のオンライン検索を開始し、倍増したデータを収録した新たなCD-ROMを作成した。なお、平成10年度入力レコード数は、新規発生データ14,641件であった。

【作成代表者】 北村 甫・東洋文庫電算化委員会委員長

【作成分担者】 石井米雄、佐藤次高、斯波義信、小名康之、福田洋一の各委員

文部省新プログラム方式による創成的基礎研究

【課題】 「現代イスラーム世界の動態的研究－イスラーム世界理解のための情報システムの構築と情報の蓄積－」（研究代表者・佐藤次高東京大学教授）

【期間】 平成10年度（平成9年度新規事業・5ヶ年間・第2年度）

【目的】；

本研究の第一の目的は現代のイスラーム世界をその動態において解析することである。ここでいうイスラーム世界とは、いわゆる中東・北アフリカ地域だけではなく、ロシア・中央アジア・中国・南アジア・東南アジア・アフリカ・ヨーロッパさらには南北アメリカをも含んでいる。もちろんわれわれが対象とするのは、宗教としてのイスラームに限られない、文明としてのイスラームである。このようなイスラーム世界に着目すると、ここには豊かな歴史と伝統をそなえた独自の文明とともに、民族問題・地域紛争・人口爆発・環境破壊・政治の民主化と人権の問題など、現代世界が直面する重要な問題が集約的に見いだされる。本研究はこのように多様な地域の諸問題をイスラームをキーワードとして総合的に理解することをめざす。

第二の目的は、このような研究をとおして新しい地域研究の手法を開発することである。ここでは、思想・宗教・政治・経済・歴史などの学問領域を越えた学融合

を試みるとともに、国際的な共同研究の基盤の整備をはかり、三次元地理情報システム、多彩なデータベースの構築などを実現するためのコンピュータ技術の積極的な開発・応用を試みることになる。

第三の目的は、次代のイスラーム地域研究を担う若手研究者の育成であり、あらゆる機会に若手研究者の参加を募るほか、日本学術振興会特別研究員の制度を活用して内外の若手研究者の育成につとめる。本研究は、以上の活動をととして21世紀の世界の動向を左右するイスラーム世界の動態を把握し、「実証的な知の体系」を築き上げることを目的とする。

また、研究の全体を統轄するために研究代表者を中心とする統括班を組織し、その下で6つの研究班、すなわち「イスラームの思想と政治」・「イスラームの社会と経済」・「イスラームと民族・地域性」・「地理情報システムによるイスラーム地域研究」・「イスラームの歴史と文化」・「イスラーム関係史料の収集」などの研究班が、個々の研究課題に即して、研究会の開催、研究者の海外派遣と海外からの招聘、国際研究集会の開催などの活動を展開することとする。(以下、略)

【第6班研究課題】「イスラーム関係史料の収集」

【目 的】；

本班は、現代イスラーム地域の政治・社会・文化の基層構造を研究するために必要な各種の資料の収集と、その利用のための情報システムの構築を目的とする。したがって、本研究プロジェクト全体をサポートする役割を担うが、主として前近代の資料を対象とする。近現代の資料の収集は、研究班3「イスラームと民族・地域性」が担当する。

日本において、イスラーム地域に関する現地語資料（アラビア語、ペルシア語、トルコ諸語、ウルドゥー語など）の収集にもっとも早くから着手し、最大の蔵書量と資料整理の技術を蓄積しているのは、財団法人東洋文庫である。現在では、さまざまな大学や研究機関において、資料の収集が進められているが、限られた予算とスタッフで行われているために、収集における偏りや重複が避けられない。本プロジェクトでは、東洋文庫に前近代のイスラーム関係資料を集中して収集することによって、ここをイスラーム研究の基礎資料を備えたセンターとすることをめざす。

イスラーム地域の現地語資料は、アラビア語をはじめ、非ラテン文字を用いることが多い。このため、従来は、図書カードや目録など図書整理の方式が不統一で、相互の利用を困難にしてきた。現在では、パソコンにおいても、アラビア文字など特殊文字の処理が可能となっており、図書情報のデータベース化やインターネットを通じてのオンラインによる検索や利用のシステムを開発することによって、将来は、イスラーム関係の資料を所蔵する研究機関や図書館が連携して、資料の収集と

共同利用にあたる事が可能になると考える。

以上の目的と理由から、本班は、東洋文庫に研究の中心をおき、研究班5「イスラームの歴史と文化」と密接に提携しながら、資料の収集とその利用を図ることとする。

【事業実施概要】；

(1) 前近代イスラーム関係資料の収集と研究

イスラーム地域の政治社会構造や文化の理解のためには、現地の言語（アラビア語、ペルシア語、トルコ諸語、ウルドゥー語、マレー語など）で著された史・資料が不可欠であり、これらの系統的な収集を実施した。収集資料は、図書を中心とするが、写本資料や文書資料についても、海外の所蔵機関の協力をえて、マイクロフィルムや電子メディアのかたちで、これらの積極的な収集をはかった。平成10年度では、前年度に総括班のパイロット研究として着手したオスマン帝国の資料台帳（テメツチュアート）研究を本班に移し、外国人研究者との文書資料の共同研究を推進した。

(2) 図書情報のデータベース化とオンライン・サービスの充実

前近代のイスラーム地域の資料の中心となるのは、アラビア文字を用いた資料である。しかし、これまで研究機関や図書館のほとんどでは、アラビア語などの言語資料を扱う図書整理の専門的技術をもたなかった。東洋文庫では、平成8年度に、アラビア語・トルコ語の蔵書目録のデータベース化を終え、CD-ROM目録を刊行した。電子技術の革新によって、将来はさらに多様な文字を用いた目録のデータベース化や情報のオンライン化が可能となろう。その際に諸言語の資料整理の方式を統一化することができれば、国内・国外の資料の検索、収集、利用をはるかに容易に行うことができる。本班では、東洋文庫に蓄積されているノウハウを基礎に、イスラーム関係資料の統一した情報整理システムの提案・試用を実施した。このため、昨年度には国内の研究機関の協力をえて現地語資料の所蔵調査を行い、今年度からは、主要機関と連携し、先の東洋文庫版データベース方式の試用を開始した。

(3) 収集資料の公開と利用

収集した資料については、その目録をコンピュータによって逐次作成したうえ、CD-ROMやインターネットなどの電子メディアを通じて公開し、資料の迅速な公開と利用を図る。今年度から、インターネットによる新着資料の書誌情報の公開を開始した。また、手書きの写本や文書資料など特殊な資料については、これを用いた研究会や資料講読の研究会などを開催し、今年度はペルシア語写本講読会をはじめた。また、収集した資料を画像データとして保存・利用するための技術の開発につとめた。

【平成10年度具体的な事業実施内容】；

- (1) 中東地域（アラブ、トルコ、イラン）の資料収集（政治・経済関係）を継続した。
- (2) 中央アジア、東南アジアのイスラーム関係資料の収集のために、2名を現地に派遣して、資料調査と収集につとめた。
- (3) 東洋文庫で作成したアラビア語等のデータベース方式を、他の研究機関と提携し、資料整理の試用につとめた。
- (4) E. エシュラーギ教授（テヘラン大学）を招聘し、ペルシア語写本講読会を開催した。
- (5) トルコ文書資料調査のため1名を現地に派遣した。
- (6) シンポジウム「イスラーム地域研究における写本・文書史料の可能性」（九州大学 98年12月）を開催した。

【第6班研究代表者】 北村 甫・(財)東洋文庫理事長

【研究分担者】；

統括：北村甫、永田雄三

トルコ関係史料：永田雄三、清水宏祐、

林佳世子（兼・オスマン帝国資産台帳研究主宰）

イラン ♪ ：志茂碩敏、清水宏祐

アラブ ♪ ：三浦徹（兼・書誌情報データベース化）

中国・中央アジア関係史料：梅村坦

南・東南アジア ♪ ：小名康之

ii. 一般調査研究

本年度は、特に、唐代史（敦煌文献）研究委員会、宋代史研究委員会を中心に調査研究を進めた。

（研究部12研究委員会の各委員会の中の研究課題の後に付された●印は、文部省国庫補助金事業費および東洋文庫学術情報提供費を使用して主に重点的に事業担当したことを表す。また、研究委員会の後に※印を付した委員会は、つぎの「iii. 特別調査研究」の事業を別途に行っていることを表わす。）

東亜考古学研究委員会

- ① 故梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真、実測図、拓本、野帖等）の整理とその目録の作成。

古代史研究委員会

- ① 中国古代都市研究会の開催。
4月18日(土) 妹尾達彦「唐長安城の都市プラン」
6月27日(土) 塩沢裕仁「建康石頭城と洛陽金塘城」
10月3日(土) 徐 天進「西周墓地の幾つかの問題」
12月19日(土) 山田 智「北朝の都市と国家」
3月31日(水) 石黒ひさ子「曾昭燏—中国近現代史を生きた女性考古学者」
- ② 東洋文庫蔵越南本書目の作成。
- ③ 中国古代史研究会(中国古典籍の読書会)の開催。(以上、前年度の継続)
- ④ 東洋文庫所蔵中国画像銘、造像銘、墓碑銘拓本の整理研究。

唐代史(敦煌文献)研究委員会

- ① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。
- ② 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献及びそれらの研究成果の公開、および情報の提供。
- ③ 敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集及びそれらに引用された出土文書番号の採録カード(目録補遺)の補充。
- ④ 敦煌・吐魯番出土社会経済史関係文書集Ⅴ「補遺編」の研究・編集●。
(以上、前年度の継続)
- ⑤ 内陸アジア出土古文献研究会の開催。
- ⑥ 日本現存中国拓本(含・石刻資料)研究会の開催。

宋代史研究委員会

- ① 『宋史食貨志訳註(三)』の編集・刊行●。
- ② 『宋史選舉志訳註(三)及び(二)(三)の索引』の作成。
- ③ 『宋史食貨志訳註(四)(五)(六)及び(七)総索引』の作成。
(以上、前年度の継続)
- ④ 『宋会要輯稿』食貨之部の要項(地名、一般)及び語彙索引の作成。
- ⑤ 宋代研究文献目録及び速報の作成。

明代史研究委員会

- ① 明代社会経済等に関する文献の講読および研究会の開催。(前年度の継続)

清代史(満蒙)研究委員会

- ① 「東洋文庫所蔵満文檔案」の整理・研究。

- ② 『満文内国史院檔』の講読研究会の開催。(隔週、研究会の開催)

(以上、前年度の継続)

近代中国研究委員会※

- ① 近現代中国関係資料の書誌的研究。
② 近現代中国関係資料の収集・整理。
③ 『近代中国研究彙報』第21号の編集・出版。
④ 日中現代史研究会の開催。

7月4日(土) 小風秀雅「19世紀後半期の世界システムと東アジア
——不平等条約体制の再検討」

10月24日(土) 本庄比佐子「福建事変と日本」

12月19日(土) 安藤正士「改革開放下の社会と政治」

2月20日(土) 塚瀬 進「満洲の日本人——日本商人の存在形態について」

- ⑤ 戦前期中国実態調査資料の総合的研究。(以上、前年度の継続)

6月5日(金) 研究の中間的総括と今後の活動に関する検討会の開催

日本研究委員会

- ① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書誌解題(Ⅲ)(Ⅳ)(Ⅴ)』の作成。(前年度の継続)
② 日本関係洋書解題目録の作成。

朝鮮研究委員会

- ① 漢字の朝鮮字音、中国音韻学の研究・調査。
② 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

中央アジア・イスラム研究委員会

- ① イスラム社会の構造の研究。
② イスラム関係史料の収集と研究(現代イスラム世界の動態的研究)。
③ ロシア所蔵中央アジア古代語文献の総合的研究。
④ イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。(以上、前年度の継続)

4月18日(土) 前田弘毅(東京大学)

「サファヴィー朝のゴラームに見る「奴隸軍人」の諸相—グルジア出身
4家系の事例から—」

5月23日(土) 中野信孝(東京大学)

「イル・ハン国からマムルーク朝に流入した軍事集団」

6月20日(土) 齊藤久美子(東京大学)

「16世紀初頭のディヤルバクル地方—オスマン朝による

東アナトリアの征服と支配—」

7月18日(土) 五十嵐大介(中央大学)

「15世紀後半以降マムルーク朝のシリア統治政策：ダマスクス州の事例から」

9月26日(土) 阿久津正幸(慶応大学)

「マドラサの社会史—ザンギー朝・アイユーブ朝アレppoを中心に—」

10月24日(土) 西村淳一(九州大学)

「マルウ地方の都市と村—サムアーニーのキターブ・アルアンサーブ

の情報を中心に—」

11月28日(土) 佐野東生(慶応大学)

「イラン・シーア派の統治体制と神学校」

1月30日(土) 佐藤規子(カーイデアザム大学)

「西南アジアのシーア派コミュニティと宗教ネットワーク、クエッタの事例」

⑤ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。

⑥ 隊商貿易史の研究。

⑦ トルコ日本両国の近代化の比較研究。

チベット研究委員会※

① 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。

② チベット学に関する研究会の開催。(以上、前年度の継続)

南方史研究委員会

① 東南アジア・南アジア関係歴史言語資料の調査・収集・研究。(前年度の継続)

② ヴェトナム関係、タイ関係研究資料の整理、目録の作成。

③ 辻文庫目録(3)、荻原文庫目録の Index およびモリソン2世文庫目録の作成。

iii. 特別調査研究

チベット特別調査研究(チベット研究委員会)

【目的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】 ；

1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会受入のチベット人研究者の協力のもとに下記の作業を進めた。

- ① 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂のカードを点検し、目録データベースの作成を継続した。
- ② チベットの伝統的仏教学の基礎教程について数冊の教科書を選び、チベット人研究者とともに、分析・研究を進めた。
- ③ チベット仏教の基本的文献についてのデータベースの作成を継続した。

2) チベット文献の収集・整理

区 分	和 漢 書	洋 書
数 量	136冊	179冊

3) 研究成果の刊行

- ① 『チベット仏教基本文献』 第4巻 B 5 判 1 冊 (刊行済)
- ② 『チベット特別調査研究年次報告』 A 5 判 1 冊 (刊行済)

近代中国特別調査研究 (近代中国研究委員会)

【目 的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】 ;

- 1) 共同利用研究
- 2) 情報交換および参考業務 (近代中国研究事務室において常時遂行)
- 3) 図書資料の収集・整理

区 分	和 漢 書	洋 書
数 量	940冊	37冊

4) 研究成果の刊行

- ① 『近代中国研究彙報』 第21号 A 5 判 1 冊 (刊行済)

Ⅳ. その他の研究助成金による事業

1) 三菱財団人文科学研究助成金特別事業

① 【課 題】 「戦前期中国調査資料の研究」(近代中国研究委員会)

【期 間】 平成7年10月～平成10年9月(3ケ年間)

【目 的】 ;

明治以降、日本の政府および民間の調査機関等は、軍事目的や占領地・植民地統治の政策立案に資するため、中国で各種の実態調査を実施した。その成果をまとめた調査資料は、中国の社会・経済・政治・地理など各方面にわたる当時の実像を語っており、旧中国社会の実態究明にきわめて有用な資料である。すでに国内外において調査資料を利用した研究があり、それは文献研究で参考とするに止まらず、近年では調査資料を基礎に中国での再調査も行われている。とは言え、その豊富な内容に対応した多角的かつ有効な利用には条件が整っているとは言えない状況である。資料の散在に加えて、資料の内容に関しても、調査項目が多岐にわたっていたり、調査者の主たる目的を超えた内容を含んでいて、資料の題名からは窺えない内容が記録されている場合がある。書誌的データのみを提供する既刊の目録だけでは、資料を有効に利用することは難しい。従って、これらの調査資料を有効に活用するためには、研究者による解題をつけた総合目録が必要とされている。本研究は、この目録編纂のために行う第一段階の作業となるものである。

【研究実績概要】 ;

調査資料については広範囲な調査と多量の資料研究が必要である点に鑑み、本研究では研究の対象を華北、華中、華南の中国主要部に関する調査資料に限ることとし、旧満洲及び台湾に関する調査資料を研究対象からはずした。この両地域については、書誌的データのみとは言え、主たる調査機関である満鉄、満洲国、台湾総督府などの刊行物の総合目録が既にあり、資料調査の基礎的条件は整っているからである。中国主要部に関する調査機関としては、過去2年の調査と研究を通して、満鉄以外に、興亜院および東亜研究所が重要な役割を担っていたと認識するに至った。しかしながら、これら両機関に関しては、興亜院自体が戦前にまとめた刊行物目録があるのみで、現在の所蔵状況を知る総合目録はない。そこで、前年度に入手した東京大学東洋文化研究所が所蔵する興亜院と東亜研究所の資料の目録カードを利用して、今年度は東洋文庫、国立国会図書館および一橋大学の所蔵状況を調査し、カードを補充した。

本研究では、東洋文庫を中心に共同研究者が所属機関およびその周辺で資料調査を行い、必要に応じて調査範囲を拡げることとしてきたが、共同研究者の久保亨は、中

国での在外研究の機会を利用して、戦後の中国に残された調査資料について若干の調査を行った。その結果、敗戦直後の北京で日本人が編纂した『華北調査研究機関業績総合調査』という貴重な資料を見つけ、そこから、日本の図書館などで所蔵が極めて少ない華北総合調査研究所の刊行物のリストを作成することが出来た。戦前期の調査資料が中国に多数残されたことは周知の事実であるが、それらを所蔵する中国の諸機関では必ずしも整理が進んでいる状況にはなく、従って、久保の調査は貴重な成果をもたらしたと言える。

個別研究は、引き続きメンバー各自の問題関心に沿って進め、研究報告と情報交換を行った。内山雅生は、華北農村社会における共同関係を基本テーマにしているが、今年度は、華北綿産改進黨に重点をおいた。三谷孝は、中国の秘密結社について研究を続けており、清末から日中戦争期にかけて日本人が行った調査の記録をまとめた。久保は、上記の中国での成果を報告したほか、華北の工業に関する調査資料の研究を続けている。奥村哲は、華中の農村調査をとりあげ、そのなかで1936-40年に満鉄が行った調査について、近年の中国の関連研究と併せて検討を加えた。坂野良吉は、中国情報（調査、収集の結果としての）と日本の政策決定の問題を追求しており、1927年の田中義一と蒋介石との会談を取り上げてケース・スタディを行った。本庄は、日本の台湾統治との関連で、20世紀初めに2回にわたって行われた福建省事情の調査報告書について詳しく検討した。

さらに、本研究プロジェクトの目的とする調査資料の解題につき目録の編纂に向けて、メンバー各自が数点の資料を取り上げ、それぞれについて解題の試案を作成してみた。書誌的事項のほか、調査担当者や調査の場所、時期そして内容、資料の性格と利用価値などを明らかにすることを共通の記述内容としていたが、さまざまな形式、態様の資料があってケース・バイ・ケースで記述する必要があること、また、どの程度の詳しさにするか、参考文献をあげるかなど、検討の余地がある。

なお、本研究の将来計画・課題としては、以下のことを指摘しておきたい。

- (1) 中国調査資料の利用価値、内容などを明らかにした解題付きの目録を2、3年以内に刊行する予定である。但し、本研究を通して、調査資料の量的膨大さゆえに、当時の調査資料全般にわたる総合目録の編纂は現状では実現困難であると認識したので、興亜院、東亜研究所といった特定の機関の調査資料を対象にすることを考えている。なお、これらの機関については、一部の回想や記録があるのみで、その調査活動の全容が明らかであるとは言えないので、その点についての研究成果も併せてまとめたいと考えている。また、データベースとしてコンピューターによる公開を行いたい、そのための準備作業をどのように行うかは検討中である。
- (2) 解題付きの目録を作成したのち、それを基礎に中国との交流をはかり、中国に残された資料についての調査を行いたいと思っている。
- (3) 中国実態調査資料を通して見る日本ないしは日本人の中国認識について共同研究

を続け、いずれモノグラフにまとめた。

【代表者】 本庄比佐子研究員

【分担者】 内山雅生（宇都宮大学教授）、三谷孝（一橋大学教授）、久保亨（信州大学助教授）、奥村哲（東京都立大学助教授）、坂野良吉（埼玉大学教授）

② 【課 題】 「サンクト・ペテルブルグ所蔵内陸アジア出土文書の総合的研究」

（研究部プロジェクト）

【期 間】 平成8年10月～平成10年9月（2ヶ年間）

【目 的】 ；

1900年、中国甘肅地方の敦煌において、5世紀初めから11世紀までの文書群約6万点が発見された。これは中央アジア諸民族の興亡と中国の漢族との関係など、従来の歴史研究の空白を一挙に埋める今世紀最大の原文書の出現である。その文書の内容は、仏教文化を伝承した敦煌にふさわしく仏典の写本が最も多いが、敦煌を含む内陸アジア出土の文書には、各宗教の教典、文学、歴史書、各種の行政関係・軍事の公文書、寺院関係などの私文書、暦、医薬書など多種多様である。

ところが、発見より10年ほどの短期間に、これらの文書はイギリス、フランス、ロシア、中国、日本など世界各地に四散秘蔵される結果となった。財東洋文庫は、敦煌文献研究センターとして、既にロンドン、パリ、北京にある敦煌文書のマイクロフィルムを組織的・網羅的に収集して多くの研究成果を公表し、内外の研究者に貢献してきた。今回は、交渉をかさねて唯一未収集のロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルグ支所所蔵敦煌等文書をマイクロ化することが可能になった。同文書には、漢文文献のほかにチベット語、ウイグル語、西夏語、ソグド語、コータン語、サンスクリット語、満洲語、モンゴル語などアジア諸言語の文献を含んでおり、内陸アジアの歴史、言語、宗教、文学などについて、より一層の総合的研究の推進に大きく寄与するものと確信する。

【事業実績概要】 ；

ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルグ支所所蔵の内陸アジア出土文書には敦煌のほかにその周辺の吐魯番・黒水故城などより入手した文書が含まれている。しかし、その全容についてはこれまで『アジア諸民族研究所所蔵敦煌漢文写本目録』（1963、67年モスクワ刊、計2,954点の著録）からしか、僅かにうかがい知ることができなかった。最近では中国の上海古籍出版社刊『俄蔵敦煌文献』（1999年2月現在10冊刊行）、同『俄蔵黒水城文献』（既刊6冊、漢語、西夏語）により、主に漢文仏典・文学関係文書の影印3,500点を閲読できるが、本プロジェクトにおける漢

文書のマイクロ化は、中国の影印刊行を見守ることとする。

東洋文庫では、1953・4年に大英博物館所蔵A・スタイン卿将来の敦煌文書約8,000点をマイクロ化して蒐集して以来、敦煌文献研究センターとしてその資料を一般に公開し、共同研究を実施してきた。敦煌等文書収蔵主要4カ国のうち、今日までにロンドンの大英図書館・旧インド省図書館の敦煌文書約16,000点(92,000齣)、パリ国立図書館約7,000点(54,000齣)、北京図書館約9,000点(13,000齣、一説に約16,000点現存とも言われる)のマイクロフィルムを積極的に蒐集し、公開してその研究成果を発表してきている。

今回、機会を得て1993年から実質的な交渉を重ねて、唯一未収集であったサンクト・ペテルブルグ支所所蔵の内陸アジア文書約19,000点(250,000齣)をマイクロ化することが可能な状況になった。ロシアの敦煌・吐魯番等の文書群は、イギリス、フランス、中国の世界主要所蔵国のうち、研究分野においても、各民族の言語においても、質・量ともにぬきんでている。従って、各言語の専門研究者を動員して先ず、龐大な文書の総合的把握を行ない、順次、言語別にマイクロ化を機能的に推進する必要がある。とりあえず、平成8年3月及び7月に国際交流基金アジアセンターの助成を得て、ロシアの敦煌・吐魯番等文書の各言語別の予備調査とマイクロ化技術等の設備状況の実態調査などを実施した。これを基礎に本事業計画では、ロシアの敦煌・吐魯番等文書の全マイクロ化を計画的に遂行する。本事業によりロシアの内陸アジア出土文書をマイクロ化して蒐集できれば、東洋文庫は世界最大の敦煌・吐魯番等文書研究センターとなり、5世紀から14、15世紀の中国を含む内陸アジア諸民族の興亡の歴史的総合研究が格段に進展することが期待される。

- (1) ロシアの敦煌・吐魯番等文書は、その大部分が未整理・未公開であるので、各種言語の専門研究者を現地に派遣して、マイクロ化のための予備調査を実施する。平成10年度からは、平成8年度・9年度につづき内陸アジア出土文書のマイクロ化収集を継続するとともに、新たに予備調査(マイクロ化選別リスト)を終了したチベット語、満洲語などの文献マイクロ化収集を実施中である。
- (2) 蒐集したオリジナル・マイクロフィルムは、各言語・分野別に研究プロジェクトを編成し整理・研究するとともに、フィルムを反転して広く一般に公開する。また、可能な限り日露共同チームを編成してウイグル語文献目録の作成のほか、タンゲート(西夏)語、コータン語、サンスクリット語、ソグド語などの内陸アジア出土文書(言語別)についても、順次整理中である。

【代表者】 佐藤次高研究部長

【分担者】 西田龍雄、池田温、梅村坦、福田洋一の各研究員

および熊本裕東京大学教授

③ 【課 題】 「サンクト・ペテルブルグ所蔵内陸アジア出土文書の総合的研究Ⅱ」

(研究部プロジェクト)

【期 間】 平成10年10月～平成12年9月(2ヶ年間)

【目 的・事業計画】 ; 前記②に同じ

【事業内容】 ;

- (1) ロシアの敦煌・吐魯番・黒水故城等将来文書は、その大部分が未整理・未公開であるので、5ヶ年間約25万匁の収集計画のもとに、各種言語の専門研究者を現地に派遣して事業を円滑に行うために平成10年度は満洲語文書等の予備調査を実施した。
- (2) 平成10年度のマイクロ化収集事業では、チベット語、満洲語文書42 Reels 31,305匁のマイクロフィルムを収集した。また、モンゴル語および漢文文書の収集計画を検討した。
- (3) 収集したオリジナル・マイクロフィルムは、ネガ・ポジフィルムに反転して各言語・分野別に研究プロジェクトを編成し、整理・研究するとともに広く一般に公開する。また、可能な限り国内および日露共同チームを編成して内陸アジア諸言語の文献目録などを作成し公表する。既に、ウイグル語、タングート(西夏)語、コータン語、ソグド語、サンスクリット語等については、収集したオリジナル・ネガフィルムを反転し公開にむけて仮目録を作成中である。

【代表者】 佐藤次高研究部長

【分担者】 西田龍雄、池田温、梅村坦、石橋崇雄、福田洋一の各研究員
および熊本裕東京大学教授

2) 国際交流基金アジアセンター文化財保存支援助成の対象事業

① 【課 題】 「セント・ペテルスブルグ蔵敦煌等文書保存支援」

(プロジェクト代表: 北村甫理事長)

【期 間】 平成7年度末～平成10年6月(3ヶ年間)

【事業の背景・目的】 ;

1900年、中国甘肅地方の敦煌において、5世紀初めから11世紀前半までの一大文書群約6万点が発見された。これは、中央アジア諸民族の興亡や中国の漢族との関係など、従来の歴史研究の空白を一挙に埋める今世紀最大の原文書の出現である。ところが、発見より10年間ほどの短期間に、これらの文書はイギリス、フランス、ロシア、中国、日本など世界各地に四散秘蔵される結果となった。東洋文庫は、敦煌文献研究センターとして、すでにロンドンの大英図書館・旧インド省図書館約16,000点(92,000匁)、パリ国立図書館約7,000点(54,000匁)、北京図書館約9,000点(13,000匁、一説に

約16,000点現存とも言われる)の敦煌文書のマイクロフィルムを組織的に収集してきた。今回は、唯一未収集のロシア科学アカデミー東洋学研究者St.ペテルスブルグ所蔵敦煌文書の保全とそのマイクロ化により文書の収集を企画するものである。

【事業実績概要】；

ロシア科学アカデミー東洋学研究所セント・ペテルスブルグ支所所蔵の敦煌・吐魯番(トルファン)・黒水故城(カラホト)等文書は、ペトラシアン前所長およびクイチャノフ所長の情報によれば概数約25万齣に達する。しかしこの内陸アジア諸民族およびその諸言語の文書群については、世界屈指の一大コレクションであるということは判明していても、その詳細については全く不明であり、今日まで各言語別の概略すら把握されていない。この未整理・未公開の貴重な世界的文化遺産の保存と保護のため、さしあたりこの一大文書群を対象に、世界ではじめてオリジナル・ネガフィルムを作成することとした。

そこで、平成7年度の国際交流基金アジアセンターの助成により、1996年3月にオリジナル・ネガフィルム作成による保全を目的とする「セント・ペテルスブルグ所蔵敦煌等内陸アジア出土文書の保存支援」を東洋文庫とセント・ペテルスブルグ東洋学研究所との間で、5ヶ年間(1996年4月～2001年3月)、約19,000点(約25万齣)の保存支援(オリジナル・ネガ化)を実施する契約書(1996年4月3日付)を調印することができた。この調印のための予備調査によって5世紀～14世紀における内陸アジア諸民族の諸言語は、ウイグル語、ソグド語、コータン語、サンスクリット語のほか、膨大な分量の西夏語、チベット語および漢文文書などの広範囲におよぶ世界唯一の世界的文化遺産であることを確認した。

- (1) 本プロジェクトの平成9年度末のアジアセンター助成の保存支援事業によって、未だ継続収集中のカラホト(黒城)出土の膨大な西夏語古刊本類の保存支援(オリジナル・ネガフィルム化)を終了することができた。
- (2) 内陸アジア将来文書の一大コレクションであるチベット語(中央アジア民族、吐蕃・西藏)の古写本・木版仏典類の保存支援を遂行した。

この3ヶ年間に於いて世界にさがけて蒐集したセント・ペテルスブルグ所蔵の世界的文化遺産である内陸アジア出土古文書のフィルム資料を収集・反転できたことは、原文書の保全にとってより有益な手段であり、本件プロジェクトの保存支援の事業を達成することができたと確信する。これによって、今まで未整理・未公開であったこのセント・ペテルスブルグ所蔵の内陸アジア出土の第一級文書群のマイクロフィルム資料作成による保存支援は、既に収集されている大英図書館・旧インド省図書館蔵、北京図書館蔵、パリ国立図書館蔵の敦煌等文書(フィルム資料)と比較照合して利用することによって、歴史、言語、宗教、社会、文学などの個々の研究領域の推進にとどまらず、5世紀から14、15世紀の中国を含む内陸アジア諸民

族の興亡にかんする歴史的総合研究が格段に進展することが期待される。

※ 平成7・8・9年度及び9年度末の国際交流基金アジアセンターの文化財保存支援事業費、財団法人三菱財団人文科学研究助成金および財団法人東洋文庫事業費による、セント・ペテルスブルグ所蔵の内陸アジア諸民族の古文書のオリジナル・ネガフィルム化と保存のための基本的プロジェクトは、当初5ヶ年計画の中、平成11年3月現在、ほぼ重要な内陸アジア諸言語文献227Reels 145,126齣のネガフィルムを蒐集することができた。

【申請責任者】 北村 甫理事長

【担当責任者】 佐藤次高研究部長

【主要協力者】 山本達郎、西田龍雄、竺沙雅章、梅村坦の各研究員

および熊本裕東京大学教授

3) 生科学工業株式会社寄付金特定事業（南方史研究委員会）

【事業名】 東南アジア研究資料収集整理プロジェクト [プロジェクト代表：山本達郎]

【期 間】 平成10年度～同12年度（3ヶ年計画）。

本事業は最初平成元年度より6ヶ年計画で完了する予定であったが、モリソン2世文庫に関する事業は完了できなかったので、平成7年度より3ヶ年をかけてその完成を遂行した。なお、平成10年より新たに東南アジア関係資料の収集・補充を継続する。

【目 的】 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当弥氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するため、その研究資料を収集・整理し、研究者に公開することを目的とする。

【事 業】 1) 東南アジア関係の資料の収集・補充・整理および目録の作成を進めた。

4) 榎一雄記念特定事業

【事業名】 榎一雄記念事業プロジェクト [プロジェクト代表：斯波義信]

【期 間】 平成7年度～同11年度（5ヶ年計画）。

平成6年度で完了の予定であったが、コンピュータソフトの作成などに

時間がかかり、平成7年度より第2次事業として5ヶ年をかけて完成を期する。

【目 的】 本プロジェクトは榎家よりの寄付金1億円を以て、同家より寄付された故榎一雄氏旧蔵書の整理を行い、その目録を作成、刊行する。

【事 業】 1) 入力・構成を続行した。
2) 図書の整理を完了した図書カードの検索に供した。
3) 榎文庫分類目録の編集を進めた。

V. 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。

平成10年度の各研究委員会に所属する研究員などは以下のとおりである。なお、専任・兼任の研究員以外にも、奨励研究員、当該年度受入の外国人研究員、日本学術振興会特別研究員、各大学受入の国内研修教員なども各々の研究の専門分野に応じて、便宜上、12研究委員会のいずれかに所属させた。

第1部 中国研究

東亜考古学：関野 雄、田村晃一

古代史：宇都木 章、太田幸男、松丸道雄

唐代史（敦煌文献）：池田 温、菊池英夫、氣賀澤保規、妹尾達彦、土肥義和
松本 明、岩本篤志

宋代史：草野 靖、佐伯 富、斯波義信、竺沙雅章、千葉 熨、中嶋 敏
長谷川誠夫、柳田節子、吉田 寅、渡辺紘良、劉 偉文

A. R. MOSTERN

明代史：鈴木立子、田中正俊、鶴見尚弘、山根幸夫、和田博徳

近代中国：市古宙三、滋賀秀三、田中正俊、本庄比佐子、矢澤利彦、佐藤公彦
弁納才一、安田震一、G. R. WAGNER

第2部 日本研究

日本：石塚晴通、上野英二、海野一隆、酒井憲二、佐竹昭広、田中時彦、辻本裕成
朽尾 武、鳥海 靖、中野真麻理、宮崎修多、柳田征司、山口謡司
和田恭幸

第3部 東北アジア研究

満洲・蒙古（清代史）：石橋崇雄、岡田英弘、加藤直人、神田信夫、岸本美緒

C.A.ダニエルス、中見立夫、細谷良夫、松村 潤、井上 治

T.-O. ISHDORJI

朝鮮：梅田博之、大江孝男、武田幸男、古屋昭弘、森岡 康、山内弘一

第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：梅村 坦、片山章雄、後藤 明、小松久男、佐藤次高

清水宏祐、志茂碩敏、蔀 勇造、杉山正明、永田雄三、花田宇秋、林 佳世子

三浦 徹、森安孝夫、八尾師 誠、J.A.KIM, S.DUDOIGNON

鈴木喜久子、山口(松尾)有里子

チベット：川崎信定、北村 甫、立川武蔵、西田龍雄、福田洋一、星 實千代

松濤誠達、御牧克己、山口瑞鳳

第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄、池端雪浦、石井米雄、小名康之、風間喜代三、辛島 昇

永積洋子、荻田 博、原 實、三根谷 徹、山崎元一、山本達郎、西尾寛治

陳 義、阮氏 鶯

2. 学 術 図 書 出 版

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』第80巻第1号～第4号 平成10年6月、9月、12月、平成11年3月刊

A 5 判 4 冊 全572頁

東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of Research Department of the Toyo Bunko” No. 56 1998年刊

B 5 判 106頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

古代史研究委員会（特別研究資料出版A）

『東洋文庫蔵越南本書目』 平成11年3月刊 A 5 判 v + 97頁

宋代史研究委員会（特別研究資料出版A）

『宋史食貨志訳註（三）』 平成11年3月刊 A5判 ix+490頁

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第21巻 平成11年3月刊 A5判 117頁

チベット研究委員会

『チベット仏教基本文献 第4巻』 平成11年3月刊 B5判 x+137頁

『チベット特別調査研究年度報告』 平成11年3月刊 A5判 x+22頁

東洋文庫諸目録・其他刊行物

『東洋文庫書報』第30号 平成11年3月刊 A5判 148頁

『東洋文庫新着図書目録』第46号 平成11年3月刊 B5判 98頁

『東洋文庫年報』（平成9年度版） 平成10年12月刊 A5判 ii+83頁

3. 講演会

春期 東洋学講座（共通テーマ；中央アジア探検の先駆者たち【I】）

第443回 平成10年5月26日（火）

「大谷光瑞とその探検」

東洋文庫研究員
東海大学助教授

片山 章雄 氏

第444回 平成10年6月2日（火）

「スヴェン・ヘディンとスウェーデンの探検隊員たち」

歴史家

金子 民雄 氏

第445回 平成10年6月9日（火）

「ロシアの探検家たち」

創価大学教授

林 俊雄 氏

秋期 東洋学講座（共通テーマ；中央アジア探検の先駆者たち【Ⅱ】）

第446回 平成10年11月10日（火）

「ドイツ・フランスの中央アジア探検」 東京国立文化財研究所
美術部第一研究室長 中野 照男 氏

第447回 平成10年11月17日（火）

「黄 文弼とその後進たち－楼蘭調査を中心に－」
大阪教育大学助教授 伊藤 敏雄 氏

第448回 平成10年11月24日（火）

「スタイン探検隊蒐集の仏教資料－大英図書館の梵語写本コレクションを中心に－」
佛教大学助教授 松田 和信 氏

特別講演会（不定期）

第1回 平成10年6月26日（金）

「中国の大学における漢籍の整理と研究」
北京大学古文献研究所教授 安 平秋 氏

第2回 平成10年6月30日（火）

「モンゴルの文献遺産をめぐって－研究の現状と展望－」
モンゴル科学アカデミー
歴史学研究所首席研究員 T.-O. Ishdorji 氏

第3回 平成10年7月3日（金）

「隋唐期政治体制の変化と発展」
北京大学歴史系教授 呉 宗國 氏

第4回 平成10年10月21日（水）

「ハラジ語研究の重要性－イランのチュルク系言語－」
バンベルグ大学教授 Semih Tezcan 氏

第5回 平成10年11月20日（金）

「中国における宋史研究の現状」

北京大学歴史系教授 張 希清 氏

第6回 平成10年12月11日（金）

「新独立のトルコ系諸共和国における言語政策の調査」

ベルリン自由大学教授 B. Kellner-Heinkele 氏

第7回 平成11年1月29日（金）

「ガスヴィーン市街に現存するサファールヴィー朝期の史跡について」

テヘラン大学歴史学科教授 Ehsan Eshraghi 氏

第8回 平成11年2月17日（金）

「ジャーヒズとシュウービーヤ運動—その著作の検討を通じて—」

韓国外国語大学講師 A-Jeong Kim 氏

4. 研 究 会（東洋文庫談話会）

・平成11年2月19日（金）

「中国農村経済の近代化と構造」

東洋文庫受入内地研究員
金沢大学経済学部助教授

弁納 才一 氏

・「義和団研究の幾つかの問題—起源・キリスト教・国家主義—」

東洋文庫受入内地研究員
東京外国語大学教授

佐藤 公彦 氏

・平成11年3月18日（木）

「ホトクタイ＝セチェン＝ホンタイジと16世紀のモンゴル」

東洋文庫奨励研究員

井上 治 氏

5. 学 術 情 報 提 供

i 研究者養成

東南アジア研究 西尾 寛治 (東京大学文学博士) [4月30日退任]
「ムラユ世界における差異と共通性：前植民地期ムラユ王権の比較分析を通して」

東アジア研究 安田 震一 (香港大学客員研究員) [7月1日採用]
「歴史画に見る東アジアの発展」

モンゴル研究 井上 治 (早稲田大学P.D.)
「モンゴル語古文文献の基礎的研究」

中国研究 岩本 篤志 (早稲田大学P.D.)
「中国北朝後期における社会史的研究－東魏から北齊、そして隋唐へ」

ii 研究者の交流および便宜供与のサービス

1) 国内研究者の受入

佐藤 公彦 文部省内地研究員 (東京外国語大学外国語学部教授)
「中国近世における民衆宗教に関する資料的研究」
(平成10年5月1日～同11年2月26日・東京外国語大学の依頼)

弁納 オー 文部省内地研究員 (金沢大学経済学部助教授)
「20世紀における中国農業の構造的特質とその史的展開」
(平成10年9月1日～同11年2月26日・金沢大学の依頼)

2) 平成10年度日本学術振興会特別研究員P.D.の受入

鈴木 貴久子 (東京外国語大学大学院修了・文学博士)
「前近代アラブ・イスラーム都市社会の食生活・食文化の
変容に関する基礎的研究」
(平成9年度採用、同10・11年度2ヶ年間東洋文庫受入)

山口(松尾)有里子 (お茶の水女子大学大学院修了)

「オスマン帝国中期における司法・文教組織－「イルミエ」の発展と

ウラマー (イスラム学識者)－」

(平成10年度採用、同11・12年度3ヶ年間受入)

3) 外国人研究者の受入

劉 偉文 中国杭州大学歴史系講師

「前近代日中家庭形態の比較研究」(平成8年5月11日～同10年5月9日・私費)

ISHDORJI, Tsogt-Ochir モンゴル科学アカデミー歴史学研究者首席研究員

「15～18世紀モンゴル語史料の研究－オロン・スム文書を中心に－」(平成9年9月11日～同10年7月5日・国際交流基金特定地域専門家フェローシップ)

MOSTERN, A. Ruth カリフォルニア大学バークレー校歴史学部講師

「宋代地域史の研究」(平成9年9月6日～同10年7月16日・Fulbright-Hays Grant)

TRAN, Nghia (陳 義) ベトナム人文社会科学センター漢喃研究所教授

「日本所蔵の中国・ベトナム文献の調査と目録作成」

(平成10年6月4日～同8月31日、国際交流基金招聘)

NGUYEN THI, Oanh (阮氏 鶯) ベトナム漢喃研究所研究員

「越中日における民間文学研究資料の総合的調査」

(平成10年6月10日～同8月31日、漢喃研究所派遣費ほか)

KIM, Jeong-A (金 珽娥) 韓国外国語大学講師

「哲学者としてのアル・ヒジャーズ」

(平成10年4月1日～同11年2月28日・日本学術振興会招聘)

DUDOIGNON, Stephane フランス社会科学高等研究院研究員

「20世紀初頭の中央アジアにおけるムスリム民族運動」

(平成10年9月5日～同11年9月4日・日本学術振興会招聘)

WAGNER, G. Rudolf ドイツ・ハイデルベルグ大学漢学研究所長

「清末民国初期における輿論の研究」(平成11年3月1日～同7月31日・私費)

4) 研究者の派遣

5) 外国人研究者への便宜供与

China (People's Republic)

白	新	良	南開大学歴史研究所教授
安	平	秋	北京大学中文系教授
呉	宗	国	北京大学歴史系教授
趙	建	民	復旦大学歴史系教授
陳		夕	中共中央党史研究室中共党史資料編輯部副編審
明阿徳・			
額日徳木図			中央民族大学中国少数民族語文學院蒙文系講師
袁		闖	復旦大学哲学系副教授
鑲	徳	民	〃 〃
方		駿	香港教育学院講師
熊	遠	報	華中師範大学歴史文化学院講師
劉	偉	文	杭州大学歴史系講師
于	世	明	中華書局副編審
劉		剛	雲南省民族研究所教授
張	徳	信	中国社会科学院近代史研究所研究員
孫	進	己	遼寧省瀋陽東亜研究中心所長・研究員
孫		泓	遼寧省瀋陽東亜研究中心副研究員
呉		曾	北京大学歴史系教授
史	金	波	中国社会科学院民族研究所研究員・副所長
索	文	清	〃 〃 副研究員
陳	祖	武	〃 歴史研究所研究員・副所長
李	錫	厚	〃 〃 研究員
解	莉	々	〃 〃 外事局副所長
羅	冬	陽	東北師範大学副教授
張	希	清	北京大学歴史系教授
王	道	智	中国第二歴史檔案館副館長
蔡	錦	松	〃 〃 研究員
郭	必	強	〃 〃 副研究員
石	源	華	復旦大学歴史系教授
毛		佩	中国人民大学歴史系教授
茅	海	建	中国社会科学院近代史研究所副研究員

趙	英	蘭	吉林大学歷史系助教授
孫	術	國	南開大學歷史系講師
吳	元	豐	中國第一歷史檔案館滿文部主任
趙	阿	平	黑龍江省滿語研究所所長
楊		忠	北京大學中文系教授
盧		偉	“ “ 講師
曹	亦	冰	“ “ “
顧	永	新	“ “ “
廖	肇	亨	“ “ “
Gordian Gaeta			Dr., Historian (Hongkong)

China (Taiwan)

許	文	堂	台灣中央研究院近代史研究所助理研究員
吳	明	法	台灣大學歷史系教授
唐	啓	華	中興大學歷史學科副教授

France

S. Dudoignon	Fellow Researcher, Institut Français d'Etudes sur l'Asie Centrale (Tashkent).
--------------	--

Germany

Semih Tezcan	Prof., Dr., Lehrstuhl für Türkische Sprache, Geschichte und Kultur, Universität Bamberg.
Barbara Kellner- Heinkele	Prof., Dr., Institute für Türkologie, Freie Universität Berlin.
R. G. Wagner	Prof., Dr., Institute of Chinese Studies, Univ. of Heidelberg.

India

Mushviul Hasan	Prof., Jamia Millia Islamiya, Jawaharlal Nehru Univ.
----------------	---

Indonesia

Saleh Sauliah

Librarian, Dept. of Bibliography and Automation,
Center for Library Services, Indonesia National
Library.

Mulni Adelina
Bachtar

Researcher, Head of Acquisition Section, Center for
Scientific Documentation and Information,
Indonesian Institute of Sciences, Jakarta.

Iran

Ehsan Eshraghi

Prof., Dr., Dept. of History,
Faculty of Letters and Humanities, Tehran Univ.

Kazakhstan

S. M. Nadyrov

Prof., Dr., Chief of Economical Security Department,
Kazakhstan Institute for Strategic Studies under
the President of the Republic of Kazakhstan.

Korea

白 承 玉
金 珽 娥
趙 炳 魯
宋 義 政
南 權 熙
蔡 尚 植
金 昌 鎬
金 鍾 健

釜山大学校人文学部講師
韓國外国語大学校アラブ文学部講師
京畿大学校史学科教授
Seoul 国立中央博物館研究官
慶北大学校文献情報学科教授
釜山大学校史学科教授
慶北大学校史学科教授
〃 〃 講師

Malaysia

Abu Talib Ahmad

Dr., Associate Prof. History Section, School of
Humanities, Univ, Sains Malaysia, Penang.

Cindy Postma

Fulbright scholar, Univ. of Malaya.

Mongolia

T-O Ishdorji

Leading Senior Researcher, Dept. of Historiography,
Institute of History, Mongolian Academy of
Sciences.

Myanmar

Tun Aung Chain

Secretary, Myanmar Historical Commission.

New Zealand

Rolf. W. Geibel

Researcher in Buddhist Philosophy.

Russian Federation

Efim A. Rezvan

Dr., Deputy Director of the Institute of Oriental
Studies of the Russian Academy of Sciences
(St. Petersburg Branch).

Edward N. Tyomkin

Dr., Research Fellow, Supervisor of Manuscript
Department, Institute of Oriental Studies of the
Russian Academy of Sciences
(St. Petersburg Branch).

B. L. Riftin

Dr., Research Fellow, (Chinese Literature),
Institute of World Literature of the Russian
Academy of Sciences (Moscow).

Saudi Arabia

Saad Abdul-Aziz
Al-Rashid

Prof., Dept. Minister for Antiquities and Museums,
Ministry of Education, Kingdom of Saudi Arabia.

Singapore

Teow See Heng

Prof., Head, Dept. of Japanese Studies, National
Univ. of Singapore.

Thailand

Nongnath Chairat

Lecturer, Dept. of Library Science, Faculty of Hu-
manity, Srinakharinwirot Univ.

Turkey

Mehmet Ölmez

Associate Prof., Tokyo Univ. of Foreign Studies.

Turkmenistan

Begench S. karayev Counsellor, Head of Analytical Dept.,
Ministry of Foreign Affairs of Turkmenistan.

U. K.

Haideh Ghomi Dr., Researcher, Institute of Oriental Culture,
Univ. of Tokyo.

Elisabeth Librarian, Dr., Chief of Chinese Section, Oriental
Frances Wood and India Office Collections, The British Library.

U. S. A.

Amy V. Heinrich Director, C. V. Starr East Asian Library,
Columbia Univ.

Karl Gerth Fulbright Junior Scholar, Ph. D., Dept. of History,
Robinson Hall, Harvard Univ.

J. S. Schoeberlein-Engel Director, Harvard Forum for Central Asian Studies,
Harvard Univ.

R. A. Mostern Lecturer, Dept. of History, Univ. of California,
Berkeley.

K. R. Robinson Assistant Prof., International Christian Univ., Tokyo.
Jan Nattier Associate Prof., Dept. of Religious Studies,
Indiana Univ.

Shiro Saito Librarian, Univ. of Hawaii Library.

E. J. Smith Prof., World History, Univ. of Hawaii.

Denis Sinor Distinguished Professor Emeritus, Department of
Central Eurasian Studies, Indiana Univ.

Vietnam

Tran Nghia Prof., Institute of Chinese and Sino Vietnamese Studies,
National Center for Social Sciences and Humanity of Vietnam.

N. T. Oanh Researcher, “ ”.

Pheum Düc

Thaňh Dung

Deputy Chief, Huế Monuments Conservations Centre
in Vietnam.

Phan Thanh Haï

Researcher,

〃

〃.

iii 研究会等への会場提供サービス

数量／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	17	18	16	18	1	9	12	15	12	8	9	14	149回
参加人数	144	274	365	191	10	94	114	411	144	80	137	156	2,120人

iv 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報第79巻4号、第80巻1、2、3号	各500部
東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書書誌解題 II	350部
A Classified Catalogue of Books on the Section India in the Toyo Bunko (Ⅲ): acquired during the Years 1983-1996	各100部
A Classified Catalogue of Books on South-East Asia in Western Languages in the Toyo Bunko (Ⅱ) : acquired during the Years 1979-1996	
近代中国研究彙報 第20号	70部
東洋文庫欧文紀要 第55号など2種	各50部

v 参考情報提供サービス

『東洋文庫年報』 平成9年度版 A5判 1冊 85頁 (刊行済)

(上記の出版を含めて、2.「学術図書出版」に一括されているので参照されたい。)

※なお、《5.学術情報提供》における「図書資料の閲覧(協力)サービス」、「研究資料複写サービス」の事業報告については、『I.図書事業』の項目に便宜上、一括して掲載した。また、同じく「特定研究資料の収集」、「研究資料の補修再製本・製本」等については、平成10年度はとくに報告することはない。

6. 職員の研究業績

期間：平成10年4月1日～平成11年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介
⑥…翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

石橋 崇雄

③「清朝の支配権と典礼——特に清初前期におけるハン権・皇帝権と即位儀礼・祭天典礼の問題を中心として——」（『王権のコスモロジー』〈比較歴史学大系1〉、206～232頁、弘文堂、1998年4月）、「清朝国家論」（『岩波講座世界歴史13 東アジア・東南アジア伝統社会の形成：16～18世紀』、173～192頁、岩波書店、1998年8月）。

井上 和枝

③「朝鮮後期における洞契の運営と機能——晋州・丹城餘沙洞契を中心に——」（朝鮮文化研究5、27～55頁、1998年3月）、「韓国の家族制度の変化——老後の問題を中心に——」（武蔵野女子大学人間関係学科研究紀要3、45～53頁、1998年7月）、⑤山内弘一「李朝後期の戸籍編成について」、吉田光男「1663年『漢城府北部戸籍』にみえる身分標識と身分・職役」（法制史研究48、285～289頁、1999年3月）。

宇都木 章

⑧「楚の靈王と鼎の話」（『故宮博物院12 青銅器』、90～91頁、NHK出版、1998年6月）

梅村 坦

③「草原とオアシスの世界」（『岩波講座世界歴史9 中華の分裂と再生』、85～107頁、岩波書店、1999年1月）、「増補・天山ウイグル王の肖像をめぐって」（鎌倉仏教の様相、442～459頁、吉川弘文館、1999年3月）、⑤「張承志作・磯部祐子訳『北方の河』」（日本と中国（日中友好協会）1672号、1998年4月5日、第6面）、⑦「『マルコ・ポーロ』が求めたもの」（品川区春の区民大学（品川区教育委員会）シルクロードの世界9（品川区立中小企業センター）、1998年7月）、「ペテルスブルク東洋学研究所所蔵資料の研究と利用——とくにウイグル文献を中心に——」（九州史学会大会イスラム部会：シンポジウム「イスラーム地域研究における写本・文書史料の可能性」（九州大学）、1998年12月）、⑧座談会「中国の国家統合と民族問題」（中国21（愛知大学現代中国学会）3、69～98頁〔伊藤亜人・細谷良夫・武内房司・

加々美光行・高明潔]、1998年4月)。

海野 一隆

③「小型版『東海道路行之図』について」(古地図研究304、11～14頁、日本古地図学会、1998年9月)、「日本における地図作りの特色」(第17回国際古地図研究協会東京シンポジウム予稿集、1～9頁、日本古地図学会、1998年10月)、“Some Characteristics of Japanese Cartography”(同上、67～74頁、図版52～53頁；*Journal of the International Map Collectors' Society*, 75, pp. 6～13, IMCoS, London, 1998)、④「ハーリ地図学史研究奨学金第5回授与決定」(科学史研究206、106頁、日本科学史学会、1998年6月；地図36-3、39頁、日本国際地図学会、1998年9月)、⑤「感動をよぶ徹底追跡——荒川清秀著『近代日中学術用語の形成と伝播』——」(東方206、22～25頁、東方書店、1998年4月)、「『三重県史』別編・絵図・地図」(三重県史研究14、99～102頁、三重県、1998年9月)、「ピーター・ウィットフィールド著、樺山紘一監修・和田真理子・加藤修治共訳『世界図の歴史——人は地球をどのようにイメージしてきたか——』(地図情報18-3、31～32頁、地図情報センター、1998年12月)、⑦“Some Characteristics of Japanese Cartography”(International Map Collectors' Society 17th International Symposium, Tokyo, 1998年10月4日)、⑧「日本人と地図」(日本古書通信63-12、2～3頁、日本古書通信社、1998年12月)、「海図」「地図(中国の)」(『歴史学事典6 歴史学の方法』、69～72頁、380～382頁、弘文堂、1998年12月)、「津軽大里'考」(日本古書通信64-1、11～12頁、日本古書通信社、1999年1月)、「大航海時代の蔭の功労者」(『岩波講座世界歴史12』月報、1～3頁、岩波書店、1999年2月)、「外来文化と日本——地理学的視点からの展望——」(パイオニア58、1～11頁、関西地理学研究会、1999年3月)。

大江 孝男

①『新訂 言語学』(〈放送大学教材 85545 1 9911〉、財団法人放送大学教育振興会、1999年3月20日、247+2頁)、⑧「解説」：服部四郎著『日本語の系統』(岩波文庫 33-685 1、429～436頁、岩波書店、1999年3月16日)。

風間 喜代三

③「印欧語の「神」」(法政大学教養部紀要107、123～144頁、1998年6月)、「印欧語の「目」」(法政大学教養部紀要109、1～18頁、1999年2月)。

草野 靖

③「隋初戸等制の成立とその意義」(中)(福岡大学人文論叢30-1、571～614頁、

福岡大学総合研究所、1998年6月)。

氣賀澤 保規

①『府兵制の研究——府兵兵士とその社会——』(同朋舎、1999年2月、508頁)、③「中国武威の天梯山石窟——歴史的位置とその再評価」(中外日報1998年5月7日、第8面全面、中外日報社)、「東魏—北齊政権における郷兵集団の位置と性格」(明治大学人文科学研究所紀要44、107～129頁、明治大学、1999年2月)、④「日本唐代史関連研究成果目録」(1997年)(唐代史研究・創刊号、117～128頁、唐代史研究会、1998年6月)、⑦「府兵制における府兵兵士と中国中世社会」(中国中世研究者フォーラム、1998年7月26日、京大会館)、⑧「中国武威・天梯山石窟の現状」(中外日報1998年5月14日、第8・9面、中外日報社)、「中国学最前線[唐代女性史]」(月刊しにか1999年1月号、118～119頁、大修館書店、1998年12月)。

小松 久男

②共著：「三人のジャディード：近代中央アジアの眺望」(義江章夫・山内昌之・本村凌二編『歴史の対位法』、東京大学出版会、19～34頁、1998年4月)、⑦“Some notes on the National Delimitation in Central Asia”(イスラーム地域研究・中央アジア研究セミナー、東京大学山上会館、7月10日)、「トルキスタンの構想」(国際交流基金アジア理解講座「現代中央アジアを知る」1998年10月14日、国際交流基金アジアセンター)、「中央アジアの20世紀」(歴史講座全4回、調布市東部公民館、1999年1月9、16、30、2月6日)、「中央アジアの大国ウズベキスタン：イスラームの復興と新しい歴史像の形成」(ACF講座「中央アジアを知る」第3回、財団法人アジアクラブ、1999年1月25日)、⑧「中央アジア史」(樺山紘一編『歴史学事典6 歴史学の方法』、弘文堂、1998年12月)、「新たな船出——タシュケント訪問記」(史学雑誌108-3、35～37頁、1999年3月)。

佐伯 富

①青木正児博士著『茶書入門喫茶小史』索引(私家版、1～28頁、1999年1月)、青木正児博士著『茶事拾遺・茶書入門喫茶小史』索引(私家版、1～58頁、1999年3月)、③「元代における南人について」(問題と研究27-9、56～78頁、1998年6月)、「中国史上における山西商人」(問題と研究28-2、61～68頁、1998年11月)。

酒井 憲二

①『実語教童子教——研究と影印——』(三省堂、1999年2月、424頁)、②「『甲陽軍鑑』作者の謎——小幡景憲と高坂弾正」(歴史読本1998年5月号、206～211頁、新人物往来社、1998年5月)、「甲陽軍鑑の通用字」(国語文字史の研究4、99～123頁、

和泉書院、1998年8月)、⑥「翻刻『童子教注』」(調布日本文化9、65~83頁、調布学園短期大学、1999年3月)、⑦「甲陽軍鑑の言葉をめぐって」(武田氏研究会総会、1998年6月)。

佐藤 次高

①『イスラームの生活と技術』(山川出版社、1999年1月、82頁)、②『ときの地域史』(共編、山川出版社、1999年1月、385+13頁)、③「イスラームの生活原理と「とき」」(佐藤次高・福井憲彦編『ときの地域史』、山川出版社、1999年1月、246~282頁)、④「イスラーム地域研究の可能性」(学術月報50-12、18~20頁、1997年12月)、「1997年の歴史学界—回顧と展望：総説」(史学雑誌107-5、1~5頁)、⑦“Slave Elites in Islamic History,” Keynote Address at the Workshop on Slave Elites in the Middle East and Africa, The University of Tokyo, The Institute of Oriental Culture, 10 October 1998. “Introductory Remarks” for the special session entitled “The Scope and Potential of Islamic Area Studies” at MESA Annual Meeting in Chicago, 5 December 1998. 「イクター制の写本史料を求めて」(シンポジウム「イスラーム地域研究における写本・文書史料の可能性」、九州大学、1998年12月13日)、「砂糖とコーヒー文化の誕生：イスラム世界とヨーロッパの出会い」(菊田小学校改築記念講演、1999年3月6日)、「イスラーム文明と技術：紙と砂糖を中心に」(中東調査会、1999年3月27日)、⑧「イスラム研究のいま——新しい潮流のゆくえ」(ワールドトレンド、巻頭エッセイ、1~1頁、1998年9月)。

滋賀 秀三

③「清代の民事裁判について」(中国—社会と文化13、226~252頁、中国社会文化学会、1998年6月)、⑤「仁井田陞著(池田温編集代表)『唐令拾遺補—附唐日両令対照一覧』」(法制史研究48、261~266頁、法制史学会、1999年3月)。

妹尾 達彦

③「帝国の宇宙論——中華帝国の祭天儀礼——」(水林彪・金子修一・渡辺節夫編『王権のコスモロジー〈比較歴史学体系1〉』、創文社、233~255頁、1998年4月)、「唐代長安城と関中平野の生態環境変遷」(史念海編『漢唐長安与黄土高原 中日歴史地理合作研究論文集第一輯』、陝西師範大学出版社、202~222頁、1998年4月)、「唐代長安東市の民間印刷業」(中国古都学会編『中国古都研究』、226~234頁、1998年5月)、「唐都長安城の人口数と城内人口分布」(中国古都学会編『中国古都研究』12、179~189頁、1998年6月)、「構造と展開」(樺山紘一等編『岩波講座世界歴史9 中華の分裂と再生』、岩波書店、3~82頁、1999年1月)、「唐長安城における官人の居住環境」(歴史人類第27、3~37頁、1999年3月)、④「中国学最前線：北京」

(月刊しにか1998年7月号、126～127頁)、⑦「唐長安城の都市プラン」(中国都市史研究会、東洋文庫、1998年4月18日)、「唐代都市的構造と文化」(第18次中国学国際學術大会、淑明女子大学校、韓国ソウル市、1998年8月21日、要旨『発表論文要旨：主題 21世紀中国学習課題』115～119頁)、「唐代的長安和洛陽」(慶北大学校、韓国大邱市、1998年8月24日)、⑧「伝記(中国の)」 「日記(中国の)」 「文学テキスト・古典と同時代(中国の)」 「随筆／筆記(中国の)」 「稗史小説(中国の)」 (樺山紘一編『歴史学事典6 歴史学の方法』、弘文堂、1998年12月)。

武田 幸男

③「蔚州書石「癸巳六月銘」の研究——新羅・喙部集団の書石行——」(朝鮮学報168、1～28頁、朝鮮学会、1998年7月)、⑦「高句麗〈山城〉と中国〈郡縣〉——東北アジア山城の研究——」(名古屋市立大学人文社会学部研究報告会、1998年11月17日)。

立川 武蔵

①『ブッダの哲学』(法蔵館、1998年6月、227頁)、『マンダラとは何か』(高野山大学、1998年8月、207頁)、『密教の思想』(吉川弘文館、1998年11月、210頁)、『最澄と空海』(講談社、1998年12月、270頁)、②『Living with Śakti』(共編、国立民族学博物館、1999年3月、293頁)、③「ヒマラヤ山麓の展開」(世界美術大全集インド(2)、225～236頁、小学館、1999年1月)、「ネワール法界マンダラ図像資料」(国立民族学博物館研究報告23-4、699～808頁、国立民族学博物館、1999年3月)。

C. A. ダニエルズ

①『四川の考古と民俗』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所歴史・民俗叢書Ⅲ、1999年3月、319頁)、⑧「雲南漢族の出稼ぎと在来技術——騰衝調査の野帖より」(東方207、2～7頁、東方書店、1998年5月)、「シャン文化圏歴史紀行——サルウィン河の西と東(前編)」(歴史と地理516、37～48頁、山川出版社、1998年8月)、「シャン文化圏歴史紀行——サルウィン河の西と東(後編)」(歴史と地理518、24～33頁、山川出版社、1998年11月)、「清代貴州苗族の植林技術」(日中文化研究14、102～107頁、勉誠出版、1999年1月)、「The Role of Technological Transfer in the Formation of Dai Polities ; 13th to 16th Centuries」(新谷忠彦編『シャン文化圏における言語学的・文化人類学的調査』、181～198頁、平成8年度～平成10年度科学研究費補助金(国際学術研究)研究成果報告書、1999年3月)、「技術史が置き去りにされるその理由」(『岩波講座世界歴史13』月報11、3～6頁、岩波書店、1998年8月)、「技術書(中国の)」(『歴史学事典6 歴史学の方法』、110～111頁、弘文堂、1998年12月)。

竺沙 雅章

②『法隆寺一切経の基礎的研究——大谷大学所蔵本を中心として——』（平成8～10年度科学研究費補助金基盤研究（B）（2）研究成果報告書、研究代表者、90頁、1999年3月）、③「元版大蔵経概観」（『西大寺所蔵元版一切経調査報告書』、7～20頁、奈良県教育委員会、1998年3月）、「簡潔で平明な中国史」（東方209、18～21頁、東方書店、1998年7月）、⑦「宋元文化の北流」（山口大学共通教育センター、1998年11月18日）、⑧「実証主義が生んだ敦煌学——藤枝晃氏を悼む」（産経新聞夕刊、1998年7月29日）、「蘇東坡とその時代」（月刊しにか1998年11月号、12～19頁、大修館書店、1998年11月）、「繁体字と簡体字」「書物の移り変わり」「誤字の変化」「漢和辞典の改変」（原載『AERA』「今という時間」、『学苑余話』V、85～91頁、大谷大学、1999年3月）、「藤枝晃先生の敦煌学」（通信23、3～5頁、日仏東洋学会、1999年3月）。

鶴見 尚弘

②『明清福建経済契約文書選輯』（唐文基・周玉英共編著、人民出版社、1997年5月、2+10+55+799頁）、⑧「明代の魚鱗図冊」（友松88、104～108頁、友松会、1998年10月）、「これからの国際文化の交流」（やまなし9、山梨地域留学生交流推進協議会、1998年11月）。

朽尾 武

③「髑髏の和漢比較文学序説——髑髏説話の源流と日本文学——」（和漢比較文学21、1～16頁、和漢比較文学会、1998年8月）、「^{京大本紫明抄}_{天理本河海抄}引用漢籍注考證稿〔帝木〕甲」（成城国文学論集26、21～48頁、成城大学大学院、1999年3月）。

鳥海 靖

②『詳説日本史研究』（五味文彦・高埜利彦氏と共編著、山川出版社、1998年9月、538頁、「第9章近代国家の成立・第10章近代日本とアジア」317～458頁を分担執筆）、⑤「トク＝ベルツ編・菅沼竜太郎訳『ベルツの日記』（歴史と地理522、46～53頁、山川出版社、1999年3月）、⑦「中国の世界史教科書に描かれた日本」（日中社会科教科書会議、1998年5月30日、中国人民教育出版社・国際教育情報センター共催、東京）、「日本は何故国際的に孤立したか——1920・30年代の歴史をふりかえる」（中央大学学術講演会、1998年6月6日、7月4日、9月5日、千葉ほか）、「日本の歴史教育と歴史教科書」（ヨーロッパ評議会教育家訪日団とのシンポジウム、1998年10月17日、国際教育情報センター主催、東京）、「国際化時代の歴史教育」（福島県小学校教員経験者研修会、1998年10月21日、福島県教育センター主催、福島市）、「近代日本の国際環境と対外政策——19世紀後半から20世紀初めまで」（日本・パプ

アニューギニア歴史専門家会議、1999年2月18日、国際教育情報センター主催、東京)。

中見 立夫

③「シカゴ大学東アジア図書館所蔵満州語古典籍について」(満族史研究通信7、45～62頁、満族史研究会、1998年4月)、「I. Y. Korostovets and the Mongol Problem of Independence in the early 1910s」, (*Essays on Mongol Studies : Commemorative Volume to the 70 Year Birthday of Academician Sh. Bira*, pp. 177～186, Ulan-Bator, International Association for the Mongol Studies, 1998), “New Trends in the Study of Modern Mongolian History : What Effect Have Political and Social Changes Had on Historical Research?”, (*Acta Asiatica* 76 [*Recent Trends in Mongolian, Tibetan, and Vietnamese Studies*], pp. 7～39, 1999)、④「『コミンテルンとモンゴル／文書集／』について」[Ts. Batbayar、井上治、生駒雅則と共同執筆](ニューズレター10、114～135頁、近現代東北アジア地域史研究会、1998年12月)、「東アジア近代史学会関連展覧会をめぐって」(東アジア近代史2、128～136頁、東アジア近代史学会、1999年3月)、⑦「海外史料調査雑感——日本関係史料との関連で——」(平成九年度科学研究費基礎研究B-1:「近代日本史料に関する情報機関についての予備的研究」第10回研究会、1998年6月29日、政策研究大学院大学政策研究プロジェクトセンター)、「有関巴布扎布の諸問題」(内蒙古大学第三次蒙古学国際学術討論会、1998年8月19日、呼和浩特、内蒙古大学)、「メルセ(郭道甫)とその時代——“モンゴル人”にとつての「国家」「地域」「民族」——」(特定領域研究113《現代中国の構造変動》B01班第4回研究会、1998年10月9日、青学会館)、「地域概念としての“東北アジア”」(早稲田大学アジア太平洋研究センター・小林英夫プロジェクト、1998年12月3日)、「“東北アジア”の歴史空間」(21世紀シルクロード研究会第21回研究会、1998年12月5日、中国研究所)、⑧「情報マンと泰西名画」(近代日本研究通信28、61～62頁、1998年5月6日)、「近現代の中国＝モンゴル関係」(特定領域研究113:現代中国の構造変動、その現段階および21世紀にむけての展望に関する学際的研究／研究成果報告書／、244～245頁、毛里和子、1999年3月)。

永田 雄三

③「商業の時代と民衆——『イズミル市場圏』の変容と民衆の抵抗」(『岩波講座世界歴史15 商人と市場——ネットワークの中の国家』、235～262頁、岩波書店、1999年3月)、⑦「Karaosmanoğulları Devrinde Manisa Bölgesinin Sosyal ve Ekonomik Durumu (トルコ語)」(『日本人トルコ研究者のみたトルコ』国際会議、日本－トルコ大学人会議主催、1998年5月1日、アンカラ)。

原 實

③“A Note on the gr̥hasthāśrama” (*Lex et Litterae, Studies in honour of Prof. Oscar Botto*, Torino, 1998, pp.221~235), “Bāṣpa and Āśru, A Note on the Hindu Concept of Tears” (*Studien zur Indologie und Iranistik* 21, Hamburg, 1997, pp.47~69), “Hot Tears and Cold Tears” (*Purāṇa-Itihāsa-Vimarśaḥ, Professor S.G.Kantawala Felicitation Volume*, Oriental Institute, Baroda, 1998, pp.342~350), 「不殺生考」(国際仏教学大学院大学研究紀要 1、1~37頁、1998年)、[「回向思想の背景」(印度哲学仏教学12、1~19頁、北海道大学、1997年9月)]、[「Bhagavadgita研究ノート」(インド思想史研究10、59~67頁、京都大学、1998年)]、⑤A. Malinar, *Rājavidyā, Das königliche Wissen um Herrschaft und Verzicht*, Studien zur Bhagavadgītā Harrassowitz Verlag, Wiesbaden 1996, pp.xii~505 (*Wiener Zeitschrift für die Kunde Südasiens* 42, 1998, pp.216~220)。

古屋 昭弘

②『デイリーコンサイス中日辞典』(共編、三省堂、1998年4月、814頁)、③「ドミニコ会バロ『官話文典』のローマ字表記について」(『(中国語) (慶祝唐作藩教授七十年寿辰學術論文集、121~134頁、北京語言文化大学出版社、1998年)]、[「字彙」と明代の呉方音」(中国語) (語言学論集20、139~148頁、商務印書館、1998年)]、[「明刊『箋註陶淵明集』のことなど」(中国文学研究24、112~120頁、早稲田大学中国文学会、1998年12月)]、⑧[「『定州漢墓竹簡・論語』と大西氏の予言」(中国語学研究 開篇17、35~38頁、好文出版、1998年6月)]、[「『楊家府演義』の“V倒” “V教C” 等について」(中国語学研究 開篇18、129~133頁、好文出版、1999年1月)]。

本庄 比佐子

③「三五会社の福建調査について」(科研費[基盤研究A(1)] 研究成果報告書『戦前期中国実態調査資料の総合的研究』、19~29頁、1998年4月)。

三浦 徹

③「カーディーと公証人：イスラム法世界における裁判の調停」(歴史学研究717、59~70頁、1998年11月)、[「19世紀ダマスクスの法廷文書(2)：サーリヒーヤ街区における社会経済関係」(東洋文化研究所紀要137、295~349頁、1999年3月)]、⑤「Sato Tsugitaka, *State & Rural Society in Medieval Islam : Sultans, Muqta's & Fallahun*, Leiden, 1997」(法制史研究48、269~274頁、1999年3月)。

柳田 征司

①『^{室町時代語}抄物の研究』(武蔵野書院、1998年10月、1481頁)、③『「おもろさうし」に見える、本土方言イ段音に対応するエ段音——沖縄方言の史的位置に関する有坂・服部説を検討するために——』(吉田金彦編『ことばから人間を』、昭和堂、1998年6月、94～106頁)、「京阪式・東京式中間アクセント——金沢市方言のアクセント——」(愛媛国文と教育31、8～20頁、愛媛大学教育学部国語国文学会、1998年7月)、「惟高抄物抜文」(抄物の研究9、1～55頁、抄物研究会、1999年2月)、「沖縄方言における「木」を表す「コ～」」(国語語彙史の研究18、11～23頁、国語語彙史研究会、1999年3月)。

山崎 元一

③「ポスト＝マウリヤ時代の北インド土着王国貨幣」(国学院大学紀要37、37～59頁、国学院大学、1999年3月)、⑧「上からのアーリヤ化とヒンドゥー世界の形成」(高谷好一編著『地域間研究の試み(上)』、75～87頁、京都大学学術出版会、1999年1月)。

山根 幸夫

①『中国研究に生きて——続過ぎ来し方』(汲古書院、1998年5月、288頁)、②『大安社史1951～1969——日中出版文化交流の一時代』(大安社史刊行会、1985年5月、223頁)、③『「居官必要」と『実政録』』(汲古33、60～62頁、古典研究会、1998年6月)、「偽満建国大学和“五族協和”」(中国研究38、49～54頁、中国研究雑誌社、1998年11月)、「明末の社会——そこに生きた人々」(石川九楊編『書の宇宙』8、66～73頁、二玄社、1999年3月)、④「第7回明史国際学術討論会参加記」(東方学96、158～162頁、東方学会、1998年7月)、⑤「中国人学生から見た偽満建国大学の回想——『回憶偽満建国大学』」(東方207、32～34頁、東方書店、1998年5月)、「中華民國司法行政部編、清水金二郎・張祥源訳『支那満洲旧慣調査報告』上、解説」(同書1～9頁、大空社復刻版、1999年2月)、⑦「日本・欧米・台湾における明清史研究工具書について」(南開大学歴史研究所特別講義、1998年6月8日～10日、南開大学日本研究センター)、⑧「近況」(『旧制姫路高校白陵』18、27頁、旧制姫路同窓会、1998年4月)、「序文」(『大安社史1951～1969』1～9頁、大安社史刊行会、1998年5月)、『「上海道契」の影印出版』(燎原56、19～20頁、燎原書店、1998年12月)、『「官箴書集成」全10巻の刊行について』(燎原56、21～24頁、燎原書店、1998年12月)、「懷吳傑先生」(中日関係史研究1998-3、179～188頁、中国中日関係史学会、1998年8月)、「1997年明代史論著目録」(明代史研究26、118～124頁、明代史研究会、1998年4月)、「韓国明代史論文目録」(明代史研究26、125～126頁、明代史研究会、1998年4月)、「編集後記」(汲古33、72頁、古典研究会、1998年6月)、「編集

後記」(汲古34、48頁、古典研究会、1991年1月)。

山内 弘一

- ③「朴齊家に於ける「北学」と慕華意識」(上智史学43、1998年11月、1～28頁)、
⑦「李朝後期に於ける反朱子批判の一例——日本の古学派と毛奇齡批判——」(上智大学史学会大会、1998年11月)。

吉田 寅

- ③「中国古代における塩専売論争——『塩鉄論』とその時代——」(日本塩業の研究26、91～93頁、日本塩業研究会、1998年4月)、『『寒更霰語』と幕末期仏僧の中国語キリスト教書批判」(駒沢史学52、67～86頁、駒沢史学会、1998年6月)、⑦「中国プロテスタント伝道と啓蒙的教育活動」(アジア教育史学会、1998年7月28日、於日本弘道会講堂)、『『地球説略』と『地理全志』——近代地理学の導入と中国・日本——」(キリスト教史学会、1998年10月11日、於文京女子短期大学)。

和田 恭幸

- ⑧「近世初期版本刊記集影(三)——寛永十六年～二十一年(内二〇七点)——」(調査研究報告19、共編、85～142頁、国文学研究資料館、1998年6月)。

Ⅲ 業 務 報 告

1. 総 務 報 告

ⅰ 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

理 事 会

第304回 開催日 平成10年 6 月 9 日（火曜日）
出席者 北村 甫、石井米雄、岩崎寛彌、木田 宏、佐藤次高、斯波義信
田中正俊、中根千枝、林健太郎、秋山哲兒
委任状 河野六郎、中村俊男、山本達郎

第305回 開催日 平成10年 6 月 9 日（火曜日）
出席者 北村 甫、石井米雄、岩崎寛彌、木田 宏、佐藤次高、斯波義信
田中正俊、中根千枝、林健太郎、秋山哲兒
委任状 河野六郎、中村俊男、山本達郎

第306回 開催日 平成10年11月24日（火曜日）
出席者 北村 甫、石井米雄、岩崎寛彌、木田 宏、佐藤次高、斯波義信
中根千枝、山本達郎、秋山哲兒
委任状 田中正俊、中村俊男

評 議 員 会

第139回 開催日 平成10年 6 月 9 日（火曜日）
出席者 岡野 澄、神田信夫、佐竹昭広、中嶋 敏、前田充明
委任状 奥島孝康、田部文一郎、鳥居泰彦、長尾 真、中田乙一
蓮實重彦、日比野丈夫

第140回 開催日 平成10年11月24日（火曜日）
出席者 岡野 澄、神田信夫、中嶋 敏、中田乙一、前田充明
委任状 奥島孝康、田部文一郎、鳥居泰彦、長尾 真、蓮實重彦
日比野丈夫

ii 東洋学連絡委員会の開催

- 前 期 開催日 平成10年 5 月26日（火曜日）
 出席者 北村 甫（委員長）、尾崎 康、斯波義信、竺沙雅章、中嶋 敏
 西田龍雄、日比野丈夫、山本達郎
 議 題 1．平成 9 年度財団法人東洋文庫事業報告について
 2．平成10年度財団法人東洋文庫事業計画について
 3．その他
- 後 期 開催日 平成10年11月10日（火曜日）
 出席者 北村 甫（委員長）、尾崎 康、竺沙雅章、中嶋 敏、西田龍雄
 日比野丈夫
 議 題 1．平成10年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
 2．平成11年度財団法人東洋文庫事業計画案について
 3．その他

2. 人 事 報 告

i. 役員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
10.10. 7	理 事	河 野 六 郎	逝 去	
10.12.23	〃	中 村 俊 男	〃	

ii. 委員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
10. 6.30	東洋学連絡委員会委員	入 矢 義 高	逝 去	
11. 1. 7	〃	本 田 實 信	〃	

iii. 職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
10. 4. 1	司書	篠崎陽子	就職	
10. 4. 1	研究員（奨励）	岩本篤志	委嘱	
10. 4.30	〃	西尾寛治	辞任	
10. 7. 1	〃	安田震一	委嘱	
10. 7. 3	研究員（兼任）	後藤均平	逝去	
10. 7.23	〃	藤枝晃	〃	
10. 8.	〃	越智重明	〃	
10.10. 7	〃	河野六郎	〃	
11. 1. 7	〃	本田實信	〃	
11. 3.31	研究員（奨励）	井上治	退任	

iv. 受章

年月日	役職名	氏名	区分	備考
10. 4.20	理事	中根千枝	受章	勲二等宝冠章
10.11. 3	〃	山本達郎	〃	文化勲章

IV 役 職 員 名 簿

平成11年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	北 村 甫	東京外国語大学名誉教授
理 事	石 井 米 雄	神田外語大学長 京都大学名誉教授
〃	岩 崎 寛 彌	東山農事株式会社代表取締役社長
〃	木 田 宏	財団法人新国立劇場運営財団理事長
〃	佐 藤 次 高	財団法人東洋文庫研究部長 東京大学教授
〃	斯 波 義 信	財団法人東洋文庫図書部長 国際基督教大学教授
〃	田 中 正 俊	東京大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	財団法人民族学振興会理事長 日本学士員会員 東京大学名誉教授
〃	林 健太郎	東京大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
〃	秋 山 哲 児	財団法人東洋文庫総務部長
監 事	種 田 公 二	株式会社パスコ監査役
〃	茅 野 静 逸	三菱金曜会事務局長
評 議 員	岡 野 澄	東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
〃	奥 島 孝 康	早稲田大学総長
〃	神 田 信 夫	明治大学名誉教授
〃	佐 竹 昭 広	京都大学名誉教授
〃	関 野 雄	東京大学名誉教授
〃	田 部 文一郎	三菱商事株式会社相談役
〃	鳥 居 泰 彦	慶応義塾長
〃	長 尾 真	京都大学長

役 職 名	氏 名	現 職
評 議 員	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	中 田 乙 一	三菱地所株式会社前相談役
〃	蓮 實 重 彦	東京大学長
〃	日比野 丈 夫	京都大学名誉教授
〃	前 田 充 明	城西大学名誉教授
		財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問

2. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	北 村 甫	財団法人東洋文庫理事長
委 員	江 上 波 夫	古代オリエント博物館長 東京大学名誉教授
〃	尾 崎 康	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授
〃	斯 波 義 信	財団法人東洋文庫図書部長
		国際基督教大学教授
〃	竺 沙 雅 章	大谷大学教授 京都大学名誉教授
〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	西 田 龍 雄	学術情報センター教授
〃	日比野 丈 夫	京都大学名誉教授
〃	間 野 英 二	京都大学教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏 名	現 職
W. T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
J. ジエルネ	第7パリ大学教授
	フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

4. 職 員

(平成11年 3 月31日現在)

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	部 長	佐 藤 次 高	東京大学教授
〃	研究員 (兼任)	荒 松 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	池 田 温	創価大学教授
〃	〃	池 端 雪 浦	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	石 井 米 雄	神田外語大学長
〃	〃	石 塚 晴 通	北海道大学教授
〃	〃	石 橋 崇 雄	国士舘大学教授
〃	〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	上 野 英 二	成城大学教授
〃	〃	宇都木 章	青山学院大学名誉教授
〃	〃	梅 田 博 之	麗澤大学教授
〃	〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	〃	海 野 一 隆	大阪大学名誉教授
〃	〃	大 江 孝 男	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	太 田 幸 男	東京学芸大学教授
〃	〃	岡 田 英 弘	常磐大学教授
〃	〃	小 名 康 之	青山学院大学教授
〃	〃	風 間 喜代三	法政大学教授
〃	〃	片 山 章 雄	東海大学助教授
〃	〃	加 藤 直 人	日本大学教授
〃	〃	辛 島 昇	大正大学教授
〃	〃	川 崎 信 定	東洋大学教授
〃	〃	神 田 信 夫	明治大学名誉教授
〃	〃	菊 池 英 夫	中央大学教授
〃	〃	岸 本 美 緒	東京大学教授
〃	〃	草 野 靖	福岡大学教授
〃	〃	C. A. ダニエルス	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	氣賀澤 保 規	明治大学教授
〃	〃	小 松 久 男	東京大学教授
〃	〃	後 藤 明	東京大学東洋文化研究所教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員（兼任）	佐 伯 富	京都大学名誉教授
〃	〃	佐 竹 昭 広	京都大学名誉教授
〃	〃	酒 井 憲 二	調布学園女子短期大学長
〃	〃	滋 賀 秀 三	東京大学名誉教授
〃	〃	薮 勇 造	東京大学教授
〃	〃	斯 波 義 信	国際基督教大学教授
〃	〃	志 茂 碩 敏	国立国会図書館支部東洋文庫司書
〃	〃	清 水 宏 祐	九州大学教授
〃	〃	杉 山 正 明	京都大学教授
〃	〃	鈴 木 立 子	愛知大学助教授
〃	〃	妹 尾 達 彦	筑波大学助教授
〃	〃	関 野 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	武 田 幸 男	名古屋市立大学教授
〃	〃	立 川 武 蔵	国立民族学博物館教授
〃	〃	田 中 時 彦	東海大学名誉教授
〃	〃	田 中 正 俊	東京大学名誉教授
〃	〃	田 村 晃 一	青山学院大学教授
〃	〃	千 葉 熨 長	桐朋学園大学理事長
〃	〃	竺 沙 雅 章	大谷大学教授
〃	〃	辻 本 裕 成	南山大学助教授
〃	〃	鶴 見 尚 弘	山梨県立女子短期大学長
〃	〃	朽 尾 武	成城大学教授
〃	〃	土 肥 義 和	国学院大学教授
〃	〃	鳥 海 靖	中央大学教授
〃	〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	〃	永 田 雄 三	明治大学教授
〃	〃	永 積 洋 子	城西大学教授
〃	〃	中 野 真麻理	国文学研究資料館助手
〃	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	西 田 龍 雄	京都大学名誉教授
〃	〃	萩 田 博	東京外国語大学講師
〃	〃	長谷川 誠 夫	慶応義塾大学講師
〃	〃	八尾師 誠	東京外国語大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員（兼任）	花 田 宇 秋	明治学院大学教授
〃	〃	林 佳世子	東京外国語大学助教授
〃	〃	原 實	東京大学名誉教授
〃	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
〃	〃	星 実千代	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所研究員
〃	〃	細 谷 良 夫	東北学院大学教授
〃	〃	松 濤 誠 達	大正大学教授
〃	〃	松 丸 道 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	松 村 潤	日本大学名誉教授
〃	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学助教授
〃	〃	三根谷 徹	東京大学名誉教授
〃	〃	御 牧 克 己	京都大学教授
〃	〃	宮 崎 修 多	成城大学助教授
〃	〃	森 岡 康	元国立国会図書館支部東洋文庫 司書
〃	〃	森 安 孝 夫	大阪大学教授
〃	〃	矢 澤 利 彦	埼玉大学名誉教授
〃	〃	柳 田 征 司	奈良女子大学教授
〃	〃	柳 田 節 子	元学習院大学教授
〃	〃	山 内 弘 一	上智大学助教授
〃	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学名誉教授
〃	〃	山 口 謡 司	イギリス・ケンブリッジ大学助手
〃	〃	山 崎 元 一	国学院大学教授
〃	〃	山 根 幸 夫	東京女子大学名誉教授
〃	〃	山 本 達 郎	東京大学名誉教授
〃	〃	吉 田 寅	元立正大学教授
〃	〃	渡 辺 紘 良	独協医科大学教授
〃	〃	和 田 博 徳	慶応大学名誉教授
〃	〃	和 田 恭 幸	国文学研究資料館助手
〃	研究員（専任）	北 村 甫	東洋文庫理事長
〃	〃	福 田 洋 一	
〃	〃	本 庄 比佐子	
〃	〃	松 本 明	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部 長	斯 波 義 信
〃	東洋文庫長	相 島 宏※
〃	主 査	志 茂 碩 敏※、小 林 輝 男※
〃	副 主 査	牧 武※
〃	事 務 主 任	西 蘭 一 男※
〃	司 書	桜 井 徹、中善寺 慎※、大 町 由起子※
		沢 崎 京 子※、山 村 義 照、篠 崎 陽 子
総務部	部 長	秋 山 哲 兒
〃	課 長	光 田 憲 雄
〃	会 計 係 長	金 子 祐 子
〃	参 事	中 沢 元 幸、橘 伸 子、藤 村 由美子
		吉 田 男佐武、長谷川 茂 広

(※印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

5. 臨時職員

部 名	氏 名
研究部	石川 重雄 石川 美恵 伊藤千賀子 井上 直樹 岩永 和子 江川 式部 王 詩倫 木下 宗篤 黒木 真子 現銀谷史朗 小林 歩 斎藤 正道 坂井 弘紀 澤井 充生 清水 敏江 菅原 純 鈴木健太郎 鈴木 直子 高堀 英樹 高村 武幸 谷家 章子 露口 哲也 直井 晶子 中澤 中 野原 敏江 橋爪 烈 韓 萍 深見 和子 福田 立子 福地 智子 森島 聡 吉枝 聡子 渡辺 日日
図書部	安宅 真弓 岩見 隆 呉 吉煥 加藤 良輔 金 俊憲 清水 一枝 高木 雅弘 高瀬奈津子 高田まゆみ 外川 和雅 広瀬 洋子 前島 佳孝 目黒 輝 呂 静
総務部	豊田 典子

V 財団法人東洋文庫附置 ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概 要】 東アジアを中心とするアジア諸地域の人文・社会科学の分野に関する調査研究を、多角的な視点から国際的・学際的・継続的に実施し、かつインフォメーション・センターとして研究情報の交換、研究者の交流の促進、および研究成果の普及を図る。

1. ユネスコ協力活動

【概 要】 ユネスコ本部の企画・運営する事業に対して日本における機関として積極的に協力し、関連する諸事業を推進する。

【事業内容】

(1) 「中央アジア文明史」編集協力

ユネスコ本部の編集にかかる「中央アジア文明史」シリーズについて、本部から編集委員の委嘱を受けた梅村坦中央大学教授を中心として組織した「中央アジア文明史編集協力委員会」を通じて、同シリーズ第5巻・第6巻（16世紀－20世紀）の編集に協力した。

専門委員：梅村 坦、久保一之、小松久男、新免 康、中見立夫、羽田 正、
濱田正美、堀 直、森川哲雄

(2) 参加事業計画

ユネスコ本部の参加事業計画 UNESCO Participation Programme 1998-1999に「Asian Research Trends の編集・出版」事業（2-1）をもって参加した。

(3) 「日本の思想文庫」情報の公開

日本ユネスコ国内委員会の委嘱により、同委員会編『日本の思想』シリーズ全11巻（英文“Philosophical Studies of Japan” 日本学術振興会 1959-1975年刊）について、インターネット上で和文・英文によって紹介するため、ウェブサイト（ホームページ）設置事業を企画・実施した。

本事業の実施に際し、株式会社安田総合研究所の寄附金を受けた。

2. 学 術 情 報 活 動—アジア・北アフリカ人文・社会科学関係—

【概 要】 アジア・北アフリカ諸地域の文化・社会の研究に関する情報を組織的かつ継続的に収集・交換し、その情報を公開することによって、国内外の諸研究機関および研究者の間の交流・協力を促進する。

2-1. Asian Research Trends の編集・出版

【概 要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の研究情報を全世界に向けて提供する。

【事業内容】

英文の年刊誌“Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review”の編集・出版を行なった。本年度は No. 9 (1999) を刊行し、世界各地域におけるアジア研究の動向を中心に掲載、あわせて下記「国外研究情報の収集」(2-2-(2)) 事業による調査報告等を掲載した。A 5 判変型 (1,500部)。

同誌編集のため4月17日から22日まで職員1名をマレーシアに派遣し、2月5日から11日まで専門家1名を韓国に派遣した(下記2-2-(2)-A参照)。

本事業をもって上記「ユネスコ参加事業計画」(1-(2))に参加した。また、本事業の実施に際し、事業の一部を有限会社多摩アセット(東京都町田市)に委託した。

専門委員：池端雪浦、梅村 坦、小松久男、佐藤次高、中里成章、濱下武志、

山内弘一、山崎元一

2-2. 国内外研究情報の収集

【概 要】 国内外のアジア・北アフリカ研究機関および研究者の活動に関する情報を収集し、国際的な学术交流のための基礎資料とする。

【事業内容】

(1) 国内研究情報の収集

いわゆる「東洋学」の関連研究分野における研究機関のネットワーク形成を推進するため、主要なアジア研究機関・学会、および日本学術会議等との間に、相互の訪問・通信等による研究情報の交換を行なった。また、研究機関が発行する要覧・紀要等を収集した。

(2) 国外研究情報の収集

(2)-A. 国外研究機関の訪問調査

本年度の調査対象地域の研究機関・研究状況等について資料を収集し、当該地域に所在するアジア関係研究機関の訪問調査を実施した。その対象国・派遣調査員・調査期間は下記の通りである。

マレーシア：設楽靖子（センター普及室研究員） 4月17日－4月22日

本調査において、ベナン所在の機関を訪問した。

イラン・イスラーム共和国：近藤敦子（センター調査外事室研究員）
6月11日－7月2日

本調査において、テヘラン等所在の機関を訪問した。

中華人民共和国：藤井和夫（センター運営委員、日野市教育委員会生涯学習課副主幹）
7月26日－8月2日

大井 剛（センター調査外事室長） 7月26日－8月2日

徐 光輝（龍谷大学国際文化学部専任講師）

7月26日－9月11日

本調査は、遼寧省所在の機関との研究協力のために行なわれ、大連市文物考古研究所、および瀋陽東亜研究中心等を訪問した。

大韓民国：藤井和夫（前 掲） 2月5日－2月11日

本調査において、ソウル所在の機関を訪問した。

(2)－B. 講演会の開催

諸外国の研究情報を得、研究者相互の交流を図るため、下記の講演会を開催した。

10月12日（月）

講 師：孫 進 己 中国、遼寧省、瀋陽東亜研究中心主任

主 題：中国東北民族史研究の諸問題（中国語）

会 場：東洋文庫講演室

通訳者：大貫静夫 東京大学大学院人文社会系研究科助教授

10月23日（金）

講 師：ホグジルト（呼格吉勒図）中国、内蒙古大学教授・副学長

主 題：テュルク諸語とモンゴル語との音韻対応について（中国語）

会 場：東洋文庫会議室

通訳者：呉人徳司 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手

3月29日（月）

講 師：ファン・タン・ハイ Phan Thanh Hai（潘青海）

ベトナム、フエ遺跡保存センター研究処副処長

ファム・ドク・タン・ユン Pham Duc Thanh Dung（范徳成勇）

同研究処研究員

主 題：ベトナムの古都フエの遺跡と文化（ベトナム語）

会 場：東洋文庫講演室

通訳者：新江利彦

3月30日（火）

講 師：フランシス・ウッド Wood, Elisabeth Frances

英国、大英図書館中国部主任

Curator, Chinese Section, The British Library, London

主 題：『東方見聞録』の「虚」と「実」（英語）

会 場：東洋文庫講演室

コーディネーター：石井米雄 センター所長

3月30日（火）

講 師：ボリス・リフチン Rifting, Boris L.

ロシア、科学アカデミー世界文学研究所通信研究員

Corresponding Member, Russian Academy of Sciences, Moscow

主 題：ロシアにおける「漢学」研究—古典文学を中心に—（中国語）

会 場：東洋文庫講演室

通訳者：山下一夫 慶應義塾大学非常勤講師

下記の研究会の開催に協力した。

6月19日（金）

講 師：宋 義 政 韓国、国立中央博物館考古部学芸研究官

主 題：新羅・伽耶の象形土器

会 場：青山学院大学文学部史学科研究室

主 催：東北亜細亜考古学研究会

2-C. 外国人研究者、各種専門家に対する便宜供与

本年度1-(3)および2-2-(2)-B、2-2-(3)に記載の外国人研究者以外に、センターを訪れ、またはセンターが情報提供等の便宜供与を行なった外国人研究者は下記の通りである。

Giebel, Rolf W.

Researcher in Buddhist philosophy, and translator, Diamond Harbour, New Zealand

Nattier, Jan(Ms)

Associate Professor, Dept. of Religious Studies, Indiana Univ., IN, USA

Haideh Ghomi(Ms)

東京大学東洋文化研究所客員研究員

Sauliah Saleh(Ms)

京都大学東南アジア研究センター客員研究員;

National Library of Indonesia, Jakarta, Indonesia

Saito, Shiro

京都大学東南アジア研究センター客員研究員;

Univ. of Hawaii Library, HI, USA

Schoeberlein-Engel, John Samuel	Director, Harvard Forum for Central Asian Studies, Harvard Univ., MA, USA
Teow See Heng	Head, Dept. of Japanese Studies, National Univ. of Singapore, Singapore
Karayev, Begench S.	Head of Analytical Dept., Ministry of Foreign Affairs, Turkmenistan
曾 支 農	東京大学大学院生 (人文社会系)
Hasan, Mushviul	Jamia Millia Islamiya, New Delhi, India
Rezvan, Efim	Deputy Director, Institute Oriental Studies, St. Petersburg Branch of the Russian Academy of Science, St. Petersburg, Russia
Tyomkin, E.	Supervisor of Manuscript Dept., Institute Oriental Studies, St. Petersburg Branch of the Russian Academy of Science, St. Petersburg, Russia
Postma, Cindy (Ms)	Fulbright scholar, Univ. of Malaya, Malaysia
白 承 玉	釜山大学校人文大学講師、釜山、韓国
Eshraghi, Ehsan	Professor, Dept. of History, Fac. of Letters and Humanities, Tehran Univ., Iran
Nongnath Chairat (Ms)	京都大学東南アジア研究センター外国人研究員; Lecturer, Dept. of Library Science, Fac. of Humanities, Srinakharinwirot Univ., Bangkok, Thailand
Mulni Adelina Bachtar (Ms)	京都大学東南アジア研究センター外国人研究員; Head of Aquisition Section, Center for Scientific Documentation and Information, Indonesian Institute of Sciences, Jakarta, Indonesia
Ahmad, Abu Talib	Associate Professor, History Section, School of Humanities, Universiti Sains Malaysia, Penang, Malaysia
Flath, James	Doctral student, Univ. of British Columbia, Vancouver, Canada

(2) - D. フランス国立極東学院東京支部との協力

財団法人東洋文庫内に平成6年4月設置されたフランス国立極東学院東京支部との

交流を促進した。東京支部代表は、クリストフ・サブレ氏（同学院研究員）である。

Sabouret, Christophe membre contractuel, chargé de recherche, Section de Tôkyô, Ecole française d'Extrême-Orient (EFEO).

フランス国立極東学院・国立社会科学高等研究院等の共催による日仏共同研究集会「アイデンティティ・周縁・媒介」第3回会議が11月17日・18日にパリにて開催され、同学院の招請により大井剛調査外事室長が11月15日から30日まで出張して会議に参加した。

（3） 海外専門家の招聘

学術交流を目的として海外の専門家を下記の通り招聘した。

宋 義 政 大韓民国、国立中央博物館考古部学芸研究官

平成10年6月17日－6月30日 北東アジア地域の考古学に関する日韓相互理解を深めるため、東北亜細亜考古学研究会との協力のもとに招聘し、東京および北海道所在の関係機関を訪問、青山学院大学にて研究会を開催した。

孫 進 己 中華人民共和国、遼寧省、瀋陽東亜研究中心主任

孫 泓 同研究中心秘書長

平成10年10月10日－10月22日 北東アジア地域の民族史・考古学に関する日中相互理解を深めるため、東北亜細亜考古学研究会との協力のもとに招聘し、東京および京都・大阪・奈良・福岡所在の関係機関を訪問、東洋文庫にて講演会を開催した。

（4） 在日漢籍所在調査

日本における漢籍蒐集の現状の調査を進めるため、国内所在の文庫・図書館の調査を継続した。

（5） 中国考古学研究書の編集・出版協力

中国遼寧省大連市文物考古研究所の実施した「大嘴子」遺跡発掘調査について、その調査研究報告書の編集・出版に協力した。本書の編集のため同研究所に、12月27日から29日までセンター職員1名および専門家2名を派遣し、さらに3月15日から18日までセンター職員1名および専門家1名を派遣した。なお、本事業の実施に際し、事業の一部を有限会社多摩アセット（東京都町田市）に委託した。

「大嘴子－青銅時代遺址1987年発掘報告」大連市文物考古研究所編著、大連出版社刊。中国語本文、英文摘要付き。A4判（2,000部）。

“Dazuizi: a report on bronze age site excavation in 1987,” edited by Dalian Institute of Cultural Relics and Archaeology, and published by Dalian Press, Dalian, P.R.China.

2-3. 文献目録の編集・出版

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」(2-2)において収集した学術情報をコンピュータ入力してデータベース化し、bibliography として編集する。収集データは、英文出版物およびコンピュータネットワークにより公開して、内外の研究者・研究機関に提供する。

【事業内容】

(1) 「明治初期翻訳文献目録」の編集

同書の編集のための調査を行ない、目録カードの点検整備を進めた。本書は、日本の明治時代初期に翻訳・翻案された外国文献について調査し、その原典と翻訳出版とを明らかにした目録データベースである。編集にあたり当センターがかつて実施した調査の資料をデータとした。

(2) 「日本における中央アジア関係研究文献目録」続篇の編集

同目録(1879年-1987年分収載、1988年刊行)に続く同目録続篇(1987年以降分収載)の編集を行なった。

(3) コンピュータ通信による情報提供

コンピュータ通信をメディアとして「日本における中央アジア関係研究文献目録」および「日本における中東・イスラーム研究文献目録」のデータを公開した。そのメディアは、①文部省学術情報センターの情報検索サービス(NACSIS-IR)、②東洋文庫ホームページ、③パーソナルコンピュータ通信ネットワーク「NIFTY-Serve」の「歴史フォーラム」のデータライブラリである。

2-4. Directory の編集・出版

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」(2-2)において収集した学術情報をコンピュータ入力してデータベース化し、directory として編集する。収集データは、英文出版物およびコンピュータネットワークにより公開して、内外の研究者・研究機関に提供する。

【事業内容】

(1) 国内研究者名簿の作成

研究者名簿の収集・整理、研究者個人カードの作成を行ない、各研究者の活動状況に関する情報を収集・更新した。そのデータに基づき「日本における中国学研究者名簿 1999」の編集・出版を行なった。

“Directory of Chinese Studies in Japan, 1999” B 5 判 (1,000部)。

(2) “Directory of Korean Studies in Japan” の編集

日本における韓国学・朝鮮学に関する情報を収集・整理し、上記ディレクトリの編集を行なった。

(3) コンピュータ通信による情報提供

コンピュータ通信をメディアとして「日本におけるアジア歴史研究者名簿」および「日本における印度学仏教学研究名簿」のデータを公開した。そのメディアは、文部省学術情報センターの情報検索サービス (NACSIS-IR) である。

3. 重要文献の保存・普及活動

—アジア重要文化財(文献)の保存・普及—

【概 要】 アジア諸地域の文化・社会の理解に資する貴重な文献を、アジア重要文化財として保存し普及させるため、複製・翻訳等の方法によって紹介し、研究者の利用に供するとともに広く一般読者の理解を得る。

3-1. 「アジア重要文献覆刻叢書」の編集・出版

【概 要】 アジア重要文化財として高い価値を有しながら、散逸の危険にさらされている文献や、入手のきわめて困難な文献について、それを写真版によって複製し、普及を図る。

【事業内容】

専門委員：佐藤次高、立川武蔵、御牧克己、湯山 明

委員会：7月6日 平成11年度以降の出版計画について検討した。

(1) 「スタイン蒐集東トルキスタン出土チベット古文書集成」の編集・出版

“Old Tibetan Manuscripts from East Turkestan in the Stein Collection of the British Library,” by Tsuguhito Takeuchi.

Vol. I Plates, 1997; Vol. II Descriptive Catalogue, 1998; Supplement to Vol. II: Syllabic Index, 1998.

「アジア重要文献覆刻叢書」第11巻・第12巻として、「チベット古文書集成編集刊行委員会」(委員長：山崎元一國學院大學教授)の委託を受けて同書の編集を行ない、同書Ⅱ・解説目録篇附録索引を出版した。本書は、大英図書館所蔵のオーレル・スタイン蒐集資料のうち東トルキスタン出土のチベット語古文書を、英文解説を付して複

製したものである。編者は、武内紹人神戸市外国語大学外国語学部教授である。なお、本書は大英図書館との共同出版である。A 4 判 (1,000部)。

(2) 「タイ語本アユタヤ王朝年代記」の編集・出版

“Chronicle of the Kingdom of Ayutthaya: the British Museum version preserved in the British Library,” with an introduction written by David K. Wyatt, 1999.

「タイ語本アユタヤ年代記編集刊行委員会」(委員長: 石井米雄神田外語大学長) の委託および同委員会からの寄附金(社団法人東京倶楽部文化活動助成金)を受けて、同書の編集・出版を行なった。同書は、大英図書館所蔵の年代記写本を、英文解説を付して複製したものである。解説は、デイヴィッド・ワイアット コーネル大学教授である。B 5 判 (1,000部)。

3-2. アジア史料の保存・普及

【概要】 アジア諸地域の歴史と文化に関する基本的史料を収集・保存するとともに、広く普及を図る。

【事業内容】

(1) 「アジア史料叢刊」の編集・出版

同シリーズの一点として「十九世紀対外関係ベトナム史料」の編集を行なった。本書は、19世紀のタイ・ラオス外交に関するベトナム漢文史料『国朝處置萬象事宜録』鈔本2巻の本文を英訳し、解説と注釈とを付したものである。訳注者は、マユリ・ガオシヴァトゥン氏およびプイバン・ガオシヴァトゥン氏である。

(2) ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及

4. 研究普及活動

4-1. 語学講習会

【概要】 アジア諸言語の講習会を、初学者を対象として短期集中方式により実施し、学習の機会に乏しい言語の教育を行なうとともに、語学教授法の発達に寄与する。

【事業内容】

(1) 第38回語学講習会「タイ語講習会」の開催

名古屋大学大学院国際開発研究科、および同大学文学部、言語文化部の要請に応え、

この三者との共催により下記のとおり実施した。名古屋大学大学院の履修単位に認定されるとともに、大学の社会人教育の一環として大学と地域社会との交流にも貢献した。

期 間：8月3日（月）－8月28日（金）10時－16時（土・日曜日を除く）

共 催：名古屋大学大学院国際開発研究科

名古屋大学文学部

名古屋大学言語文化部

会 場：名古屋大学大学院国際開発研究科演習室

講 師：石井米雄 センター所長・神田外語大学長

友部 愛 杏林大学講師

インフォマント：

サンボー・ブンパン、デュラヤー・ブンパワディー、トゥアンナルモン・ドックラック、ボンジーラー・スパカーン、スウィモン・ピピタランシー（いずれも名古屋大学大学院生）

修了者：15名

備 考：名古屋大学大学院国際開発研究科は、修了者のうち同大学院在籍者5名に対し履修単位を認定した。

4－2．普及活動

【概 要】 国内外の研究者・研究機関の活動を促進する情報を提供し、またセンターを事務局とすることが効果的と認められる事業を企画・運営する。

【事業内容】

「センター出版物目録」「CEACS Publications Catalogue 1998」（英文）を刊行した（1,200部）。

コンピュータネットワーク「インターネット」に公開している東洋文庫ウェブサイトにセンターのホームページを設置し、公開データ等を随時更新した。

センターの活動についての問合せに応じ、また出版物の寄贈交換等を行なった。下記の機関において出版物の展示・頒布を行なった。

東京国立博物館（通年）

5. 業 務 報 告

A. 運営委員会・顧問会議

運営委員会

前 期 開 催 日	平成10年 5 月26日（火） 10時30分－11時20分
場 所	東洋文庫 3 階会議室
出 席 委 員	8 名 委任状12名
報 告	1. 顧問の委嘱について 2. 参与の委嘱について 3. 運営委員の委嘱について
議 題	1. 平成 9 年度事業報告及び決算報告について 2. 平成10年度事業計画及び予算案について

後 期 開 催 日	平成10年11月10日（火） 10時30分－11時40分
場 所	東洋文庫 3 階会議室
出 席 委 員	6 名 委任状12名
報 告	1. 顧問の委嘱について 2. 運営委員の委嘱について
議 題	1. 平成10年度事業中間報告及び収支状況報告について 2. 平成11年度事業計画案及び収支予算案について

顧問会議

開 催 日	平成10年 5 月26日（火） 10時30分－11時20分
場 所	東洋文庫 3 階会議室
出 席 顧 問	2 名 委任状 4 名
報 告	1. 顧問の委嘱について 2. 参与の委嘱について 3. 運営委員の委嘱について
議 題	1. 平成 9 年度事業報告及び決算報告について 2. 平成10年度事業計画及び予算案について

B. 役員異動

年月日	役職名	氏 名	区分	現 職
9年 4. 1	運営委員	原 洋之介	就任	東京大学東洋文化研究所長
4. 1	運営委員	立本 成文	就任	京都大学東南アジア研究センター所長
5.28	運営委員	三角 哲生	退任	財団法人ユネスコアジア文化センター所長
5.29	運営委員	草場 宗春	就任	財団法人ユネスコアジア文化センター所長
6.30	顧 問	雨宮 忠	退任	文部省学術国際局長
6.30	運営委員	崎谷 康文	退任	文部省大臣官房審議官
6.30	運営委員	山田 勝久	退任	アジア経済研究所長
7. 1	顧 問	工藤 智規	就任	文部省学術国際局長
7. 1	運営委員	若松 澄夫	就任	文部省大臣官房審議官
7. 1	顧 問	岡野 澄	再任	東京工業高等専門学校名誉教授
7. 1	顧 問	山本 達郎	再任	東京大学名誉教授
7. 1	参 与	中村 元	再任	東京大学名誉教授
7. 1	参 与	長尾 雅人	再任	京都大学名誉教授
7. 1	運営委員	藤井 和夫	再任	実践女子大学講師
9.15	運営委員	野坂 康夫	退任	文部省大臣官房審議官
9.16	運営委員	大木 正充	就任	文部省大臣官房審議官
11.30	顧 問	三浦 朱門	退任	日本ユネスコ国内委員会会長
11年 2.24	参 与	田村 實造	逝去	京都大学名誉教授
3.10	運営委員	山澤 逸平	就任	日本貿易振興会アジア経済研究所長
3.31	運営委員	黒田日出男	退任	東京大学史料編さん所長
3.31	運営委員	荒 義尚	退任	国際交流基金専務理事

C. 職員異動

年月日	職 名	氏 名	区分	備 考
11年 3.31	参 事	小林 和弘	退職	

D. 受 章

年月日	役職名	氏 名	受 章
10年 4.29	運営委員	中根 千枝	勲二等宝冠章
4.29	運営委員	佐々木高明	紫綬褒章
11. 3	顧 問	山本 達郎	文化勲章

E. 表 彰

年月日	職 名	氏 名	区分	備 考
10年11.19	研 究 員	設楽 靖子	勤続	勤続20年に（財）東洋文庫より

F. 会計報告

平成10年度 ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

（平成11年 3 月31日現在）

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
事 業 費	89,883	国 庫 補 助 金	79,400
ユネスコ協力活動費	2,561	財 産 収 入	1
学術情報活動費	17,380	ユネスコ援助金	3,038
重要文献の保存・普及活動費	6,896	出版事業助成金	3,000
研究普及活動費	2,353	寄 附 金	3,000
人 件 費	60,351	雑 収 入	1,444
事 務 費	342		
計	89,883	計	89,883

6. 役 職 員 名 簿

平成11年3月31日現在の役職員は下記のとおりである。

[注] Eは ex officio (官職指定)。

A. 役 員

役 職 名	氏 名		現 職
所 長	石 井 米 雄		神田外語大学長、京都大学名誉教授、 財団法人東洋文庫理事
顧 問	岡 野 澄		東京工業高等専門学校名誉教授、財団 法人東洋文庫評議員
	工 藤 智 規	E	文部省学術国際局長
	藤 井 宏 昭	E	国際交流基金理事長
	前 田 充 明		財団法人国際学会理事、城西大学名誉 教授、財団法人東洋文庫評議員
参 与	山 本 達 郎		日本学士院会員、東京大学名誉教授、 財団法人東洋文庫理事
	中 村 元		日本学士院会員、東京大学名誉教授、 東方学院長
	長 尾 雅 人		日本学士院会員、京都大学名誉教授
運営委員	荒 義 尚	E	国際交流基金専務理事
	池 端 雪 浦		東京外国語大学アジア・アフリカ言語 文化研究所教授
	石 井 溥	E	東京外国語大学アジア・アフリカ言語 文化研究所長
	石 毛 直 道	E	国立民族学博物館長
	大 木 正 充	E	文部省大臣官房審議官
	辛 島 昇		大正大学文学部教授、東京大学名誉教授
	黒 田 日出男	E	東京大学史料編さん所長
	草 場 宗 春	E	財団法人ユネスコ・アジア文化センター 理事長
	佐々木 高 明		国立民族学博物館名誉教授
	佐 藤 次 高		東京大学大学院人文社会系研究科教授、 財団法人東洋文庫理事
	斯 波 義 信		国際基督教大学教養学部教授、財団法人

役 職 名	氏 名		現 職
運営委員	立 本 成 文	E	東洋文庫理事
	竺 沙 雅 章		京都大学東南アジア研究センター所長
	戸 川 芳 郎		大谷大学文学部教授、京都大学名誉教授
	中 根 千 枝		二松學舎大學大学院文学研究科教授、 東京大学名誉教授
			日本学士院会員、東京大学名誉教授、 財団法人民族学振興会理事長、財団法人 東洋文庫理事
	原 洋之介	E	東京大学東洋文化研究所長
	藤 井 和 夫		実践女子大学講師
	山 崎 元 一		國學院大學文学部教授
	山 澤 逸 平	E	日本貿易振興会アジア経済研究所長
	山 本 有 造	E	京都大学人文科学研究所長
	若 松 澄 夫	E	文部省大臣官房審議官

B. 職 員

室 名	職 名	氏 名
調査外事室	室 長	大 井 剛
	研究員	近 藤 敦 子
普 及 室	室 長	外 池 明 江
	研究員	設 楽 靖 子
	参 事	坂 本 葉 子
庶務会計室	室 長	飯 田 隆 子
	参 事	小 林 和 弘
外国人専門員		John Wisnom

C. 臨時職員

平成10年4月1日から平成11年3月31日までの間に在籍した臨時職員は下記のとおりである。

石丸由美、内田あかね、王偉宏、河原弥生、木村暁、倉本尚徳、小前亮、斎藤久美子、島谷泰子、下村倫子、関谷咲恵、高木文子、趙聖九、長縄宣博、西田暢子、野田仁、原山隆広、益井岳樹、松沼素子、森山央朗、山本美華

財団
法人 東洋文庫年報 平成10年度

平成11年12月10日 発行

発行者 東京都文京区本駒込 2 丁目28番21号

財団法人 東洋文庫
北 村 甫

印刷者 富士リプロ(株)

発行所 東京都文京区本駒込 2 丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

